

高木遺跡発掘調査概要

大阪府教育委員会
河内長野市教育委員会

序 文

大阪府教育委員会と河内長野市教育委員会は、共同して府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」に伴い河内長野市日野所在の高木遺跡の発掘調査を実施しました。

高木遺跡は早くからサヌカイト製の石器の散布が認められており、縄文時代の遺跡として周知されていました。今回の調査においては縄文時代の遺構の検出はみられなかったものの早期にさかのぼる押型文土器などが出土し、南河内地域の縄文時代を考える上で貴重な資料とすることができました。

また、今回の調査で検出された8世紀の長頸壺を収めた土坑は、高木遺跡の近隣に所在する高向遺跡などとの関係が推定されます。高向遺跡は、古代の豪族高向氏の拠点とされています。

さらに出土した平安時代末頃から鎌倉時代に比定される瓦類は、この地に仏教的な施設が存在したことをうかがせます。河内長野市内においては、多くの地区に平安時代の終り頃から鎌倉時代はじめの仏像が伝わっており、この時期には仏教の信仰と文化が広く展開したことを知ることができます。高木遺跡の所在する日野地区においても同様な状況であったことを推測させます。

高木遺跡における発掘調査は小規模なものでしたが、このように豊かな内容の成果をあげることができました。歴史資料・文化資源として広く活用されることを望みます。

今回の発掘調査も、河内長野市教育委員会と共同して実施しました。また、発掘調査の実施に当たっては地元の皆様ならびに関係機関に多くの協力をいただきました。深く感謝します。

さらに、今後とも文化財保護行政にいっそうのご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月

大阪府教育委員会事務局

文化財保護課長 野口 雅昭

序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表されるように和歌山や奈良へ向かう街道の要衝として発展してきました。

本市は、大阪市内への通勤圏に位置しているため、住宅都市として発達してきました。この住宅開発がもたらした文化財や自然に対する影響は大きなものがあります。特に、地下に眠る埋蔵文化財は、開発と直接的に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、現在の、更には未来の市民へと伝えていくことは、現代に生きる私達の責務であります。本市においては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は、日野地区にある高木遺跡の発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達の残したメッセージの一部である文化財に対するご理解を深めていただくと共に、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

発掘調査に協力していただきました方々の埋蔵文化財への深いご理解に、末尾ながら謝意を表すものです。

平成24年3月

河内長野市教育委員会事務局
教育長 和田 栄

例 言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財保護課が大阪府環境農林水産部の依頼を受けて、河内長野市教育委員会と共同して実施した府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」に伴う高木遺跡（河内長野市日野所在）の発掘調査の概要報告書である。
2. 現地調査は、河内長野市教育委員会ふるさと文化課 島津知子、大阪府教育委員会文化財保護課調査第二グループ主査 阪田育功が担当し、平成22年11月16日から平成23年1月31日に実施した。遺物整理は、大阪府教育委員会文化財調査事務所および河内長野市立ふれあい考古館（現 河内長野市立ふるさと歴史学習館）において、教育委員会調査第二グループ主査 小林義孝、調査管理グループ主査 三宅正浩、同副主査 藤田道子および島津が担当し、平成22年度から平成23年度に実施した。
3. 本調査の調査番号は、10056（大阪府教育委員会）、TGI10-1（河内長野市教育委員会）である。
4. 本調査の写真測量については、株式会社南紀航測センターに委託して実施した。撮影フィルムは同社が保管している。
5. 本書に掲載した遺物の撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
6. 調査で製作した記録資料と出土遺物は、大阪府教育委員会で保管している。
7. 本書は、第3章第5節の一部（縄文土器）を大阪府教育委員会文化財保護課調査第二グループ課長補佐 大野薫が、他は島津が執筆し、編集は島津が担当した。
8. 発掘調査、遺物整理及び本書の作成に要した経費は、大阪府環境農林水産部が負担した。
9. 本書は、300部作成し、一部あたりの印刷単価は、578円である。

目 次

序文

例言

第1章 調査に至る経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	8
第1節 調査成果の概要	8
第2節 基本層序	10
第3節 第1調査区の成果	12
第4節 第2調査区の成果	14
第5節 遺物包含層から出土した遺物	15
第4章 まとめ	20

挿図目次

第1図 高木遺跡位置図 (S=1/20,000)
第2図 河内長野市遺跡分布図 (S=1/40,000)
第3図 調査区位置図 (S=1/5,000)
第4図 第1調査区遺構配置図 (S=1/200)
第5図 第1調査区土層断面実測図 (S=1/80)
第6図 第2調査区遺構配置図 (S=1/200)
第7図 第2調査区土層断面実測図 (S=1/80)
第8図 SK1遺構実測図 (S=1/50)
第9図 SK1出土遺物実測図
第10図 SK2遺構実測図 (S=1/40)
第11図 SK3遺構実測図 (S=1/40)
第12図 SK4遺構実測図 (S=1/40)
第13図 SK5遺構実測図 (S=1/40)
第14図 SA1遺構実測図 (S=1/40)
第15図 遺物実測図 (縄文土器)
第16図 遺物実測図 (石器)

第17図 遺物実測図（その他の土器）

第18図 遺物実測図（瓦）

第19図 遺物実測図（瓦）

表目次

第1表 河内長野市遺跡一覧

第2表 遺物観察表（土器）

第3表 遺物観察表（石器）

第4表 遺物観察表（瓦）

図版目次

図版1 航空写真（北東から） 調査区全景（南から）

図版2 第1調査区 全景（北東から）

図版3 第1調査区 全景（南西から） 全景（東から）

図版4 第1調査区 SK1（南西から） SK1（北西から） SK1土層断面（南から）

図版5 第1調査区 SK2（南西から） SK3（北から） SK4（北東から）

図版6 第1調査区 北西壁断面（南東から） 南東壁断面（北西から）

下層遺構確認トレンチ（北東から）

図版7 第2調査区 全景（北東から）

図版8 第2調査区 全景（南東から） 全景（東から）

図版9 第2調査区 SK5（東から） SX1（南西から） 南東壁断面（北西から）

図版10 縄文土器 石器

図版11 弥生土器 須恵器 その他の土器

図版12 瓦（凹面） 瓦（凸面）

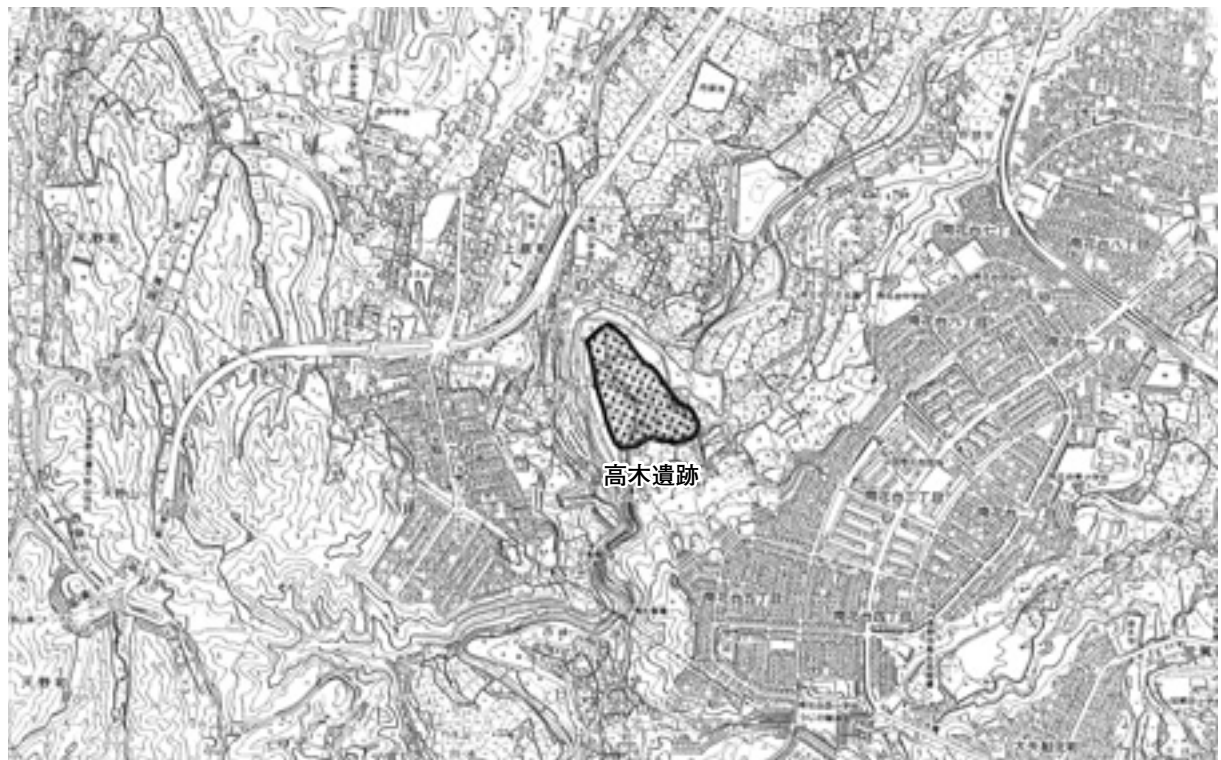
第1章 調査に至る経過

本遺跡は、従前の分布調査によりサヌカイトの散布が確認され、縄文時代の遺跡として周知されていた。

大阪府環境農林水産部によって府営農村振興総合整備事業「河内長野和泉地区」（府営ほ場整備事業）が計画され、その一部である高木遺跡においては、埋蔵文化財の有無と状況を確認するための確認・試掘を平成15年度に実施した。その結果、落ち込みやピットが検出され、須恵器や土師質土器などが確認されたことから、当該地での実施に当たって発掘調査の必要が確認された。当該事業の詳細な設計が完成し、幹線の道路部分や削平される部分が明示されたことから、遺構が損壊を受ける部分について、発掘調査を実施した。なお、平成19年度と21年度には、同ほ場整備事業の一環として、石川の対岸にあたる高向神社南遺跡で発掘調査を実施し、古代の木炭窯や中世の溝などが検出されている。

今回の発掘調査は、道路部分に当る第1調査区と削平を受ける部分の第2調査区の2ヵ所、合計面積620㎡を対象に実施した。現地調査は、平成22年11月16日から平成23年1月31日の期間で実施し、平成23年度は出土した遺物等の整理事業を実施した。

また、本書に用いた標高は東京湾平均海水面（T.P.値）、座標値は世界測地系平面直角座標（第Ⅵ系）であり、図中の表示した方位は座標北である。本書においての遺構名は、柵列をS A、土坑をS K、落ち込みをS Xという略記号を用いた。



第1図 高木遺跡位置図 (S=1/20,000)

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

河内長野市は南河内では最も南に位置し、石川流域においては、最上流部を占めている。旧国では河内にあたるが、東は大和、南は紀伊、西は和泉に接する。市域には、天見川、石川が南北に流れており、市域北部で両河川が合流する。市内の大部分が丘陵と河岸段丘であり可耕地はすくないが、交通の要衝であり特に中世以降は高野街道の発達とともに栄えてきた場所である。

当該遺跡は、市内のほぼ中央にあり、石川の河岸段丘上に立地する。当該遺跡の東側には金剛山の西斜面である丘陵部が広がっており、西側の天見川西岸も岩湧山から派生する丘陵もしくは台地となっている。また、南側には、和泉山脈が広がっており、遺跡は天見川流域の低位・中位段丘が続く北側を除いて丘陵に囲まれている。

第2節 歴史的環境

当該遺跡周辺において、人間の生活の痕跡が確認できるのは、旧石器時代に遡る。旧石器時代の遺跡は、石川流域に高向遺跡・上原遺跡が、天見川流域に三日市遺跡が所在し、市内北西部にある小山田丘陵には寺ヶ池遺跡が所在している。三日市遺跡では181点にのぼる剥片、石核、石器が出土している。石器はナイフ形石器、尖頭器、削器、楔形石器が出土している。高向遺跡ではナイフ形石器、有舌尖頭器が出土しており、寺ヶ池遺跡では、有舌尖頭器が採集されている。

縄文時代になると遺跡の数は増加する。縄文時代早期・前期の遺跡は旧石器時代の遺跡と重なる例が多い。三日市遺跡では早期の楕円押型文が施文された高山寺式土器が、高向遺跡からはC字形やD字型の爪形文が施文された前期の北白川下層式土器が出土している。また、三日市遺跡からみて天見川の対岸に位置する、小塩遺跡では楕円押型文が施文された早期の土器が出土しており、市内北部に位置する塩谷遺跡では縄文時代早期の石器が出土している。縄文時代中期の遺跡では先述の三日市遺跡や石川流域に位置する宮山遺跡があり、北白川C式土器が出土している。遺構の検出例としては、三日市遺跡では2基の土坑が、宮山遺跡で竪穴住居跡が検出されている。縄文時代後期・晩期には三日市遺跡で中津式土器、滋賀里Ⅲ式土器、船橋式土器が出土しており、石川流域の向野遺跡、喜多町遺跡でも後期とみられる縄文土器が出土している。この他にも、菱子尻遺跡で縄文時代の石器が出土しており、寺ヶ池遺跡では縄文時代の石器が表探されている。縄文時代の資料の乏しい、近畿地方においては、比較的豊富な資料が存在しているといえる。

市内において、現在のところ、三日市北遺跡の他に弥生時代前期に相当するⅠ様式の弥生土器は認められないが、南河内全体では、喜志遺跡、国府遺跡でⅠ様式の遺物が出土している。

弥生時代中期には、遺跡の数も増加し、地域の核となる拠点集落が成立することが、一般的な傾向として知られている。南河内地域において、拠点集落もしくはその候補となりうる集落遺跡

は、藤井寺市国府遺跡、富田林市喜志遺跡、甲田南遺跡等がある。しかし、喜志遺跡、甲田南遺跡については、この両遺跡の存続期間が、弥生時代の中期を中心とすることから、拠点集落には該当しないという考えもある（栗田1996）。このような考えに基づけば、石川上流部には、拠点集落が存在せず、中規模の遺跡が2～3 km間隔を隔てて連続していることになる。三日市北遺跡についても、弥生時代中期を中心とする。しかし、若干ではなるが、I様式の遺物も出土しており、隣接する弥生時代後期の大師山遺跡が、当該遺跡と有機的な関連があるとすれば、当該遺跡は、I様式からV様式まで存続していることになる。

古墳時代前期には、全長50mの前方後円墳である大師山古墳が出現する。大師山古墳は天見川と石見川が合流する地点の東側の丘陵上に位置し、当該地域の地域首長墓と考えられる。大師山古墳は戦前と戦後の2度にわたって発掘調査が行われており、内行花文鏡1面、管玉8～9個、鍬形石1個、車輪石15～16個、石釧16～17個、紡錘車4個、刀子1口、鉄剣三口以上、埴輪が出土している。主体部は粘土槨であったと推定されている。石川流域には、大師山古墳と同時期に、ほぼ同規模の前方後円墳が複数所在しており、下流から羽曳野市御旅山古墳、富田林市真名井古墳などが見られる。なお、市内では、これに続く首長墓の系譜は見いだせない。

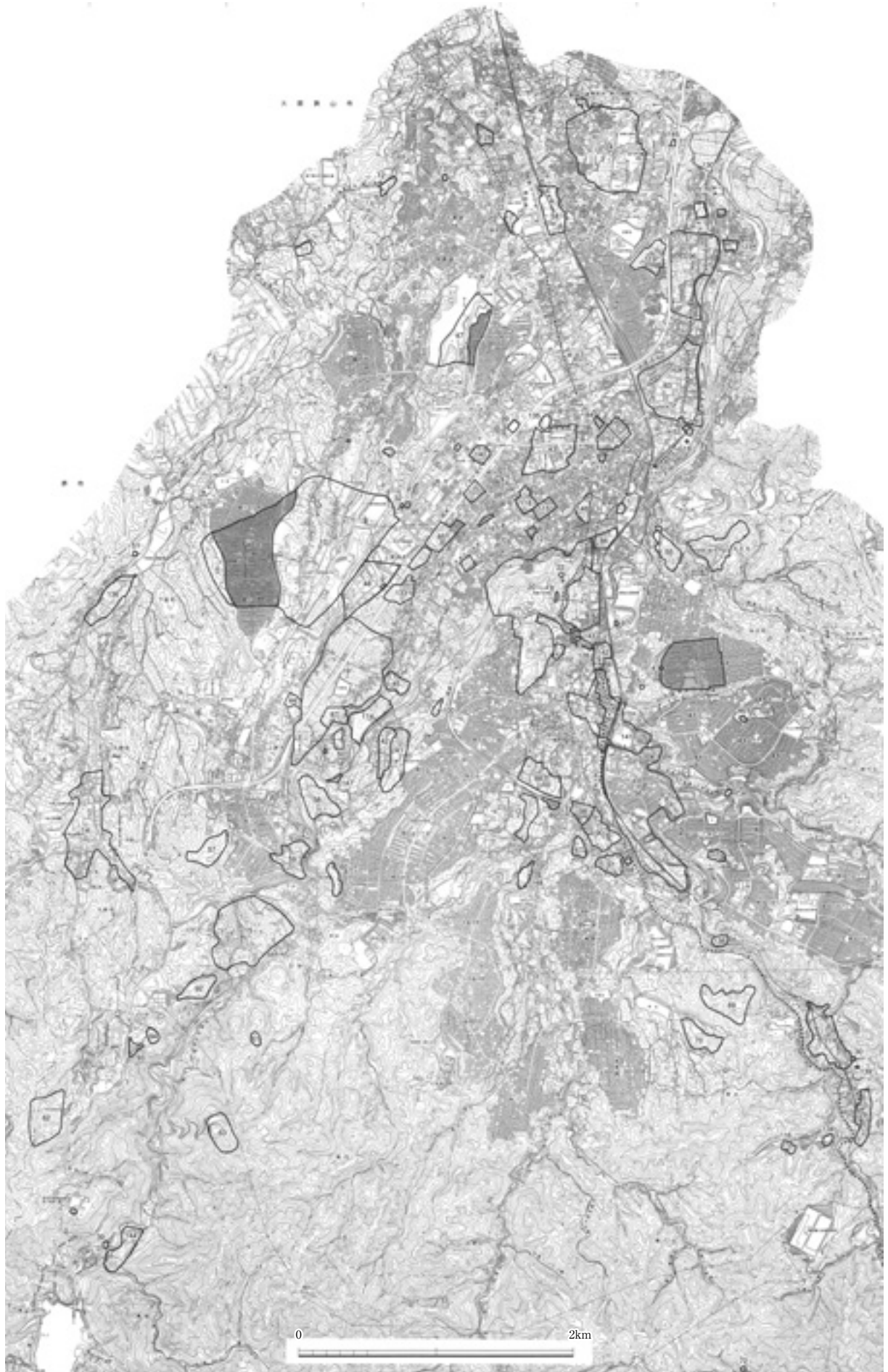
古墳時代前期の集落遺跡としては三日市遺跡があり、竪穴住居6棟、土壙墓2基が検出されている。三日市遺跡は、石川東岸の低位～中位段丘上に立地しており、当該遺跡に隣接している。弥生時代から古墳時代にかけては、三日市北遺跡（弥生中期）→大師山遺跡（弥生後期）→三日市北遺跡（庄内期）→三日市遺跡（古墳時代）と、比較的近接した場所で居住域を移動させていったことがわかる。

古墳時代中期にはいっても市内には首長墳と考えられるような大型の古墳は確認されていない。市内で確認されている中期古墳は方形低墳丘墳であり、先述の三日市遺跡から4基の古墳が検出されている。このような状況は古市古墳群をのぞく石川流域全体にみられる現象であり、他市城においても中期の前方後円墳はほとんど例が見られず、河南町の寛弘寺古墳群などでも、初期群集墳中に小型の古墳がみられるのみである。

古墳時代中期の集落としては、先述の三日市道跡が、古墳時代前期から引き続いて存続している。三日市遺跡では、先述の古墳群に近接して、竪穴住居8棟と掘立柱建物2棟が検出されている。

古墳時代後期には全国的に各地で横穴式石室を埋葬施設とする後期群集墳が出現するが、市内では三日市遺跡で検出された三日市古墳群が後期群集墳として位置づける事が可能である。市内菊水町には、五ノ木古墳がかつて位置しており、双子塚古墳、法師塚古墳等の古墳伝承地がある。これらは群集の度合いが弱く後期群集墳と呼ぶには躊躇される。また、喜多町には烏帽子形古墳、大日寺古墳がやはり単独で存在している。比較的広範囲にわたって古墳が散漫に分布する状況があったのであろう。

当該時期に集落はこの時期が最大の画期をなしている。古墳時代中期まで当該地域の中核的役割を担ったと考えられる三日市北遺跡が引き続き営まれるが、石川西岸の高位段丘上に、新しい



第2図 河内長野市遺跡分布図 (S=1/40,000)

番号	文化財名称	種類	時代	番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町以降	77	三国山経塚	経塚	平安以降
2	河合寺遺跡	社寺	平安以降	78	光滝寺遺跡	社寺	中世以降
3	観心寺遺跡	社寺	平安以降	79	猿子城跡	城館	中世
4	大師山古墳	古墳	古墳(前期)	80	蟹井淵神社遺跡	社寺	中世以降
5	大師山南古墳	古墳?	古墳(後期)	81	川上神社遺跡	社寺	中世以降
6	大師山寺遺跡	集落・生産	弥生(後期)・平安	82	千代田神社遺跡	社寺	中世以降
7	興禅寺遺跡	社寺	中世以降	83	向野遺跡	集落・生産	縄文・平安～近世
8	烏帽子形八幡神社遺跡	社寺	室町以降	84	古野町遺跡	散布地	中世
9	塚穴古墳	古墳・墳墓	古墳(後期)・近世	85	上原北遺跡	集落	中世
10	長池窯跡群	生産	平安～近世	86	大日寺遺跡	社寺・古墳・墳墓	弥生～中世
11	小山田1号古墳	墳墓	奈良	87	高向南遺跡	散布地	鎌倉
12	小山田2号古墳	墳墓	奈良	88	小塩遺跡	集落	縄文～奈良
13	延命寺遺跡	社寺	平安以降	89	加塩遺跡	集落	古墳(後期)
14	天野山金剛寺遺跡	社寺・墳墓	平安以降	90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
15	日野観音寺遺跡	社寺・生産	平安～中世	91	ジョウノマエ遺跡	城館?	中世
16	地蔵寺遺跡	社寺	中世以降	92	仁王山城跡	城館	中世
17	岩湧寺遺跡	社寺	平安以降	93	タコラ城跡	城館	中世
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)	94	岩立城跡	城館	中世
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世	95	上原近世瓦窯	生産	近世
20	烏帽子形遺跡	城館・生産	中世～近世	96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
21	喜多町遺跡	集落	縄文・古墳～中世	97	上田町窯跡	生産	近世
22	烏帽子形古墳	古墳	古墳(後期)	98	尾崎北遺跡	集落	古墳～中世
23	末広窯跡	生産	中世	99	西之山町遺跡	散布地	中世
24	塩谷遺跡	散布地	縄文～近世	100	野間里遺跡	集落	平安
25	流谷八幡神社	社寺	平安以降	101	鳴尾遺跡	散布地	中世
26	蟹井淵南遺跡	散布地	中世	102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
27	蟹井淵北遺跡	散布地	中世	103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世	104	小野塚遺跡	墳墓	中世
29	手早口駅南遺跡	社寺	中世	105	葛城第17経塚	経塚	平安以降
30	岩瀬薬師寺遺跡	社寺	中世以降	106	薬師堂跡	社寺	中世以降
31	清水遺跡	散布地	中世	107	野作遺跡	生産	中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳?		108	寺元遺跡	集落・社寺	奈良・中世
33	堂村地蔵堂跡	社寺	近世	109	鳩原遺跡	散布地	中世
34	滝畑埋墓	墳墓	近世	110	法師塚古墳跡	古墳	古墳
35	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世	111	山上講山古墳跡	古墳	古墳
36	東の村観音堂跡	社寺	近世	112	西浦遺跡	集落	古墳・中世・近世
37	西の村観音堂跡	社寺	近世	113	地福寺跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世	114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
39	滝尻弥勒堂跡	社寺	近世	115	栄町遺跡	散布地	弥生・古墳・中世
40	宮の下内墓	墳墓	古墳	116	錦町遺跡	散布地	中世
41	宮山古墳	古墳	古墳	117	太井遺跡	散布地	縄文・中世
42	宮山遺跡	集落	縄文・奈良	118	錦町北遺跡	集落	弥生・中世・近世
43	西代藩陣屋跡	散布地・城跡	飛鳥～奈良・江戸	119	市町西遺跡	集落	縄文・中世
44	上原町墓	墳墓	近世	120	栄町南遺跡	集落	中世
45	惣持寺跡	散布地・社寺	縄文・奈良・鎌倉	121	栄町東遺跡	散布地	弥生・中世
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世	122	楠町東遺跡	散布地	弥生
47	寺ヶ池遺跡	散布地	縄文	123	汐の宮町南遺跡	散布地	弥生・奈良
48	上原遺跡	散布地	旧石器～近世	124	汐の宮町遺跡	散布地	中世
49	住吉神社遺跡	社寺	近世以降	125	神ガ丘近世墓	墳墓	近世
50	高向神社遺跡	社寺	中世以降	126	増福寺	社寺	中世以降
51	青が原神社遺跡	社寺	中世以降	127	三味城遺跡	墳墓・城跡	中世・近世
52	膳所藩代官所跡	城館	江戸	128	松林寺遺跡	社寺	近世以降
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳	129	昭栄町遺跡	散布地	中世
54	菱子尻遺跡	散布地・社寺	縄文～近世	130	東高野街道	街道	平安以降
55	河合寺城跡	城館	中世	131	西高野街道	街道	平安以降
56	三日市遺跡	集落・古墳他	旧石器～近世	132	高野街道	街道	平安以降
57	日の谷城跡	城館	中世	133	上原東遺跡	散布地	弥生・中世・近世
58	高木遺跡	散布地	縄文	134	地蔵寺東方遺跡	墳墓	鎌倉
59	汐の山城跡	城館	中世	135	本多町北遺跡	散布地	中世
60	峰山城跡	城館	中世	136	下里町遺跡	散布地	古墳・中世
61	稲荷山城跡	城館	中世	137	あかしあ台遺跡	散布地	近世
62	国見城跡	城館	中世	138	岩瀬北遺跡	集落	中世
63	旗蔵城跡	城館	中世	139	岩瀬近世墓	墳墓	近世
64	権現城跡	城館	中世	140	昭栄町東遺跡	散布地・地跡	縄文・中世・近世
65	天神社遺跡	社寺	中世以降	141	三日市北遺跡	集落	弥生～中世
66	葛城第15経塚	経塚	平安以降	142	三日市宿跡	宿駅に伴う街並	中世～近世
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世以降	143	上田町宿跡	宿駅に伴う街並	中世～近世
68	庚申堂遺跡	社寺	近世以降	144	滝尻遺跡	散布地	縄文・古代・中世
69	石仏城跡	城館	中世	145	市町北遺跡	散布地	中世
70	佐近城跡	城館	中世	146	太白遺跡	散布地	中世
71	旗尾城跡	城館	中世	147	高向神社南遺跡	集落	古墳
72	葛城第16経塚	経塚	平安以降	148	塚遺跡	散布地	弥生・古墳・中世
73	葛城第18経塚	経塚	平安以降	149	鳩原東端遺跡	散布地	縄文・平安・中世
74	葛城第19経塚	経塚	平安以降	150	鳩原西端遺跡	散布地	縄文・平安・中世
75	笹尾塞	城館	中世	151	奥田井遺跡	散布地	縄文・平安・中世
76	大沢塞	城館	中世				

第1表 河内長野市遺跡一覧

集落群が展開するようになる。このような集落遺跡として、小塩遺跡、加塩遺跡、尾崎遺跡、尾崎北遺跡、西浦遺跡があげられる。これらの場所は、それまでほとんど土地利用がなされておらず、この時期に大規模な開発が行われたものと考えられる。これらの集落群他にも、高向遺跡、喜多町遺跡等が出現し、広範囲にわたって集落が拡散する。このような集落群の配置は、古代にもほぼ踏襲されてくる。小塩遺跡、尾崎遺跡、三日市遺跡、喜多町遺跡などは、古墳時代後期から古代かけて断続的に居住域が存続する。この他、新たに、石川流域で高向遺跡、野間里遺跡などが成立する。向野遺跡では集落が出現している。また、このような集落遺跡の他に小山田丘陵では火葬墓が検出されており、小山田丘陵の長池窯跡群、石川流域河岸段丘上の日野観音寺遺跡、石見川流域の寺元遺跡では炭焼窯が検出されている。

中世には、市内の遺跡は急増し、市内の大部分の遺跡で何らかの中世の遺構、遺物の検出をみている。これは高野街道の発展と金剛寺や観心寺の中興が大きく影響していると思われる。また、高野街道沿の集落遺跡や寺院では、貿易陶磁が集中的に出土している。

集落遺跡では、三日市遺跡、高向遺跡、尾崎遺跡、上原北遺跡、向野遺跡、野作遺跡、市町西遺跡、大日寺遺跡の調査で比較的広い面積からまとまった量の遺構が検出されている。この内、三日市遺跡では当時の集落域と墓域が検出されており、同様の状況は大日寺でも見ることができる。また、向野遺跡、野作遺跡、上原北遺跡では、集落遺跡に生業活動の一部を示す遺構、遺物がともなって検出されている。向野遺跡や野作遺跡ではフイゴの羽口、鉄滓、鋳型の破片が検出されており、鋳物・鍛冶関係の工房跡と見られている。また、上原北遺跡では、炭焼窯群と建物跡が近接した場所から検出されている。

城館では烏帽子形城跡が発掘調査されている。主郭に相当すると考えられる郭から瓦葺建物跡が検出されており、土師質皿、瀬戸美濃の天目茶碗、瓦が出土している。

寺院関連の遺跡では、天野山金剛寺遺跡、観心寺遺跡、岩瀬旧薬師寺跡の発掘調査でまとまった成果があげられている。観心寺遺跡は石見川流域に位置する。現在までに窯、谷状地形、石垣、杭列等を検出しており、谷状地形からは、平安時代～鎌倉時代にかけての遺物が出土している。また、観心寺遺跡に隣接する寺元遺跡では当該時期の建物跡や石組み遺構が多く検出されており、塔頭や寺領である寺元の村落の一部と考えられる遺構群を検出している。市内南部の天野山金剛寺遺跡では、これまでに調査の機会が多く、建物跡、中世墓群、井戸、土釜埋納遺構等が検出されており、主に13世紀以降の遺物が出土している。出土遺物には、土師質土器、瓦器、瓦質土器などの日常雑器に加えて備前焼、常滑焼、瀬戸美濃焼等の遠隔地で生産された国産陶磁や国外で生産された貿易陶磁を含んでおり、中世の活発な流通活動を窺い知ることができる。市内南部の天見川上流域に位置する千早口駅南遺跡からは石組、建物跡、溝、土坑等が検出されている。一般集落からは出土例の乏しい、仏具や貿易陶磁、大量の中世瓦が出土している。出土した軒丸瓦には巴文軒丸瓦に加えて複弁蓮華文軒丸瓦が含まれていた。このようなことから、千早口駅南遺跡は岩瀬旧薬師寺の遺構と判断されている。

参考文献

- 天野末喜1997『探訪 稲作のはじまり』藤井寺市教育委員会
- 栗田薫1996「甲田南遺跡の弥生時代集落の歴史的意義」『平成7年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書』富田林市教育委員会
- 栗田薫1997「喜志遺跡」『平成8年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書』富田林市教育委員会
- 井藤暁子1983「近畿」『弥生土器』ニューサイエンス社
- 尾谷雅彦1988『三日市遺跡発掘調査報告書Ⅰ』河内長野市教育委員会
- 関西大学考古学研究室1977『河内長野 大師山』
- 小林義孝1994 a 「甲田南弥生集落の実態」『甲田南遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会
- 小林義孝1994 b 「石川流域における弥生時代中期の集落群」『甲田南遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会
- 小林義孝1983「喜志遺跡の遺構分布（弥生時代）」『喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要・Ⅳ』大阪府教育委員会
- 近藤義郎1959「共同体と単位集団」『考古学研究』第6巻第1号 考古学研究会
- 酒井龍一1984「弥生時代中期・畿内社会の構造とセトルメントシステム」『文化財学報』第3集 奈良大学
- 都出比呂志1970「農業共同体と首長権」『講座 日本史1』東京大学出版会
- 寺沢薫・森井貞雄1989「河内地域」『弥生土器の様式と編年』（近畿編1）木耳社
- 蜂屋晴美1983「終末期石器製作の性格とその社会」『藤澤一夫先生古希記念 古代文化論叢』
- 濱田延充1993「生駒西麓第Ⅲ・Ⅳ様式の編年」『弥生文化博物館研究報告』第2集
- 玉井功1987「石川流域の弥生集落」『花園史学』第8号 花園大学
- 中辻亘・忍薫1984『中野遺跡発掘調査概要Ⅴ』富田林市教育委員会
- 仲原知之2001「弥生時代後期～古墳時代初頭の駒ヶ谷遺跡と南河内地域」『駒ヶ谷遺跡Ⅱ』（財）大阪府埋蔵文化財調査研究センター
- 鍋島隆宏2000「南河内・石川流域における弥生後期集落の動向」『古代文化』52-7
- 禰宜田佳男1995「南河内の弥生時代と遺跡」『弥生時代の大阪湾沿岸－河内地域史・弥生編－』大阪経済法科大学出版部
- 三好孝一2001「手工業の生産と集落」『弥生時代の集落』学生社
- 森岡秀人1999「弥生集落研究の新動向Ⅱ」『みずほ』第31号
- 山田隆一2001「大阪府南部、石川流域における弥生時代後期から古墳時代初頭社会の特質」『弥生時代の集落』学生社
- 若林邦彦2001「弥生時代の大規模集落の評価」『日本考古学』第12号

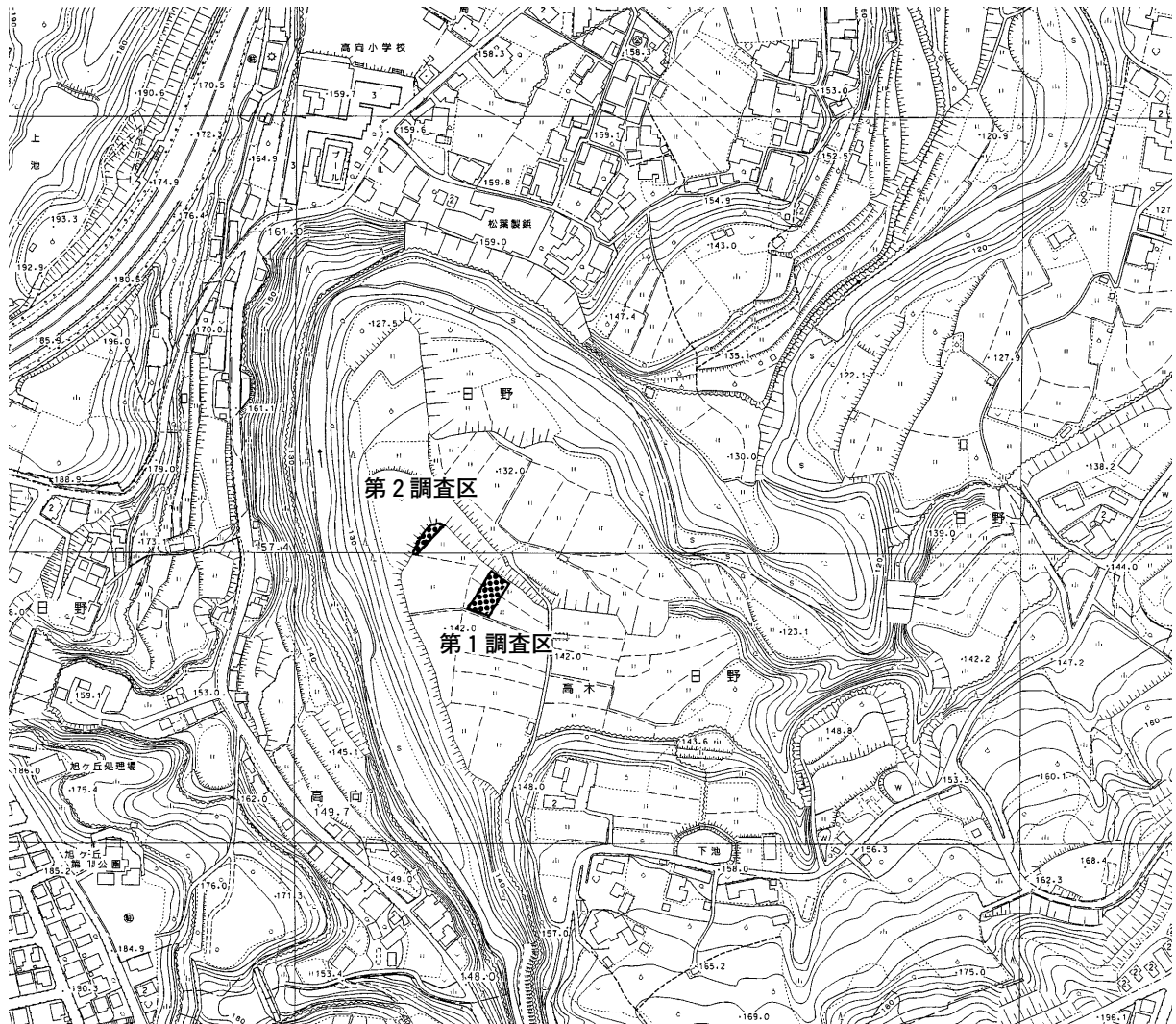
第3章 調査の成果

第1節 調査成果の概要

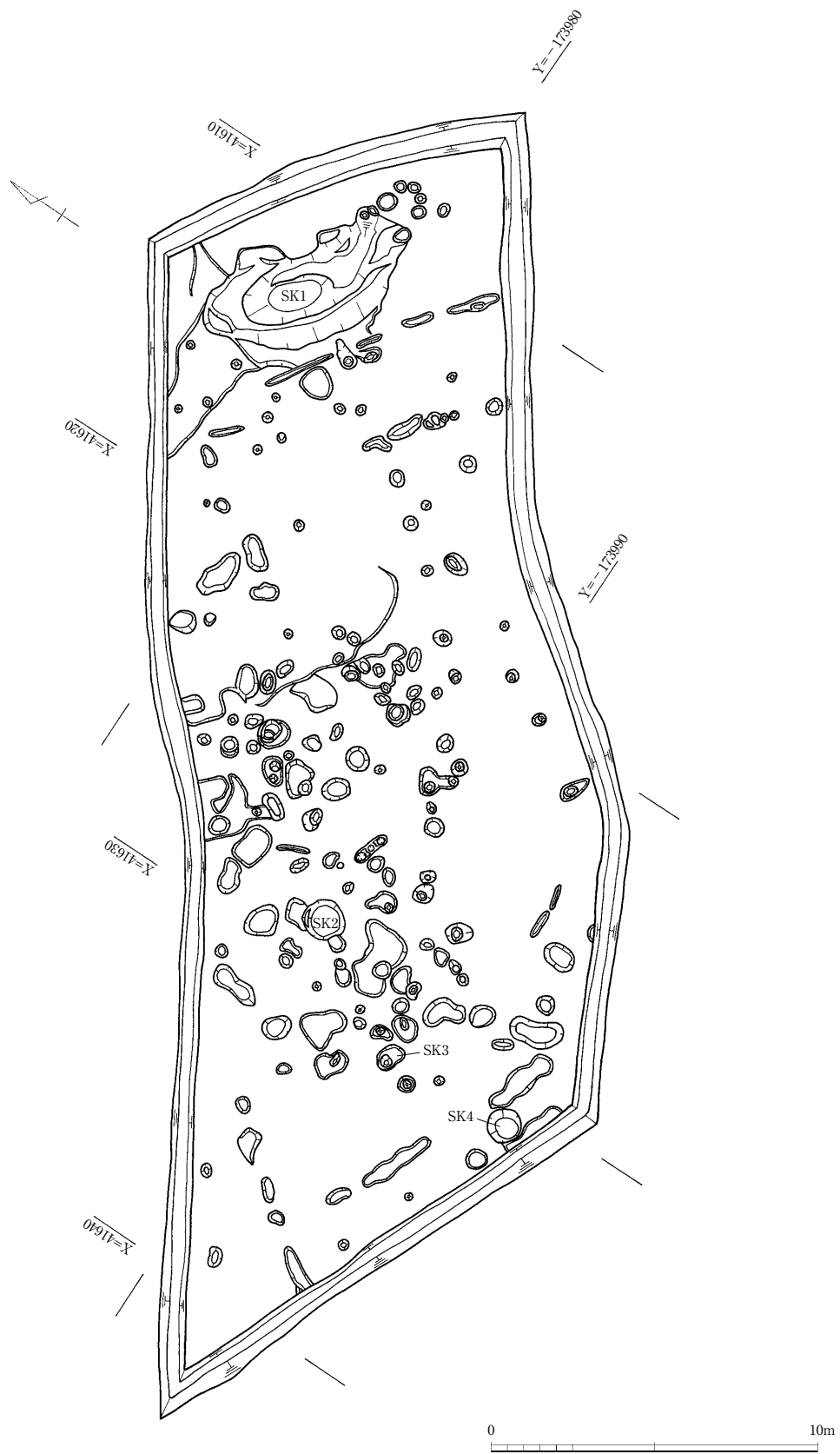
第1調査区では土坑、ピット、溝などが検出された。第2調査区では土坑、ピット、落ち込みなどが検出された。いずれの遺構も深さが浅く、耕作により上部が削平されたと推測される。遺構に伴う遺物の出土が少なく、遺構の時期の特定が困難であった。

第1調査区において、焼土の混じる土坑の最上層で瓦器の破片、土坑から奈良時代の須恵器壺、遺構面の精査中に縄文土器や土師器・土師質土器が出土した。

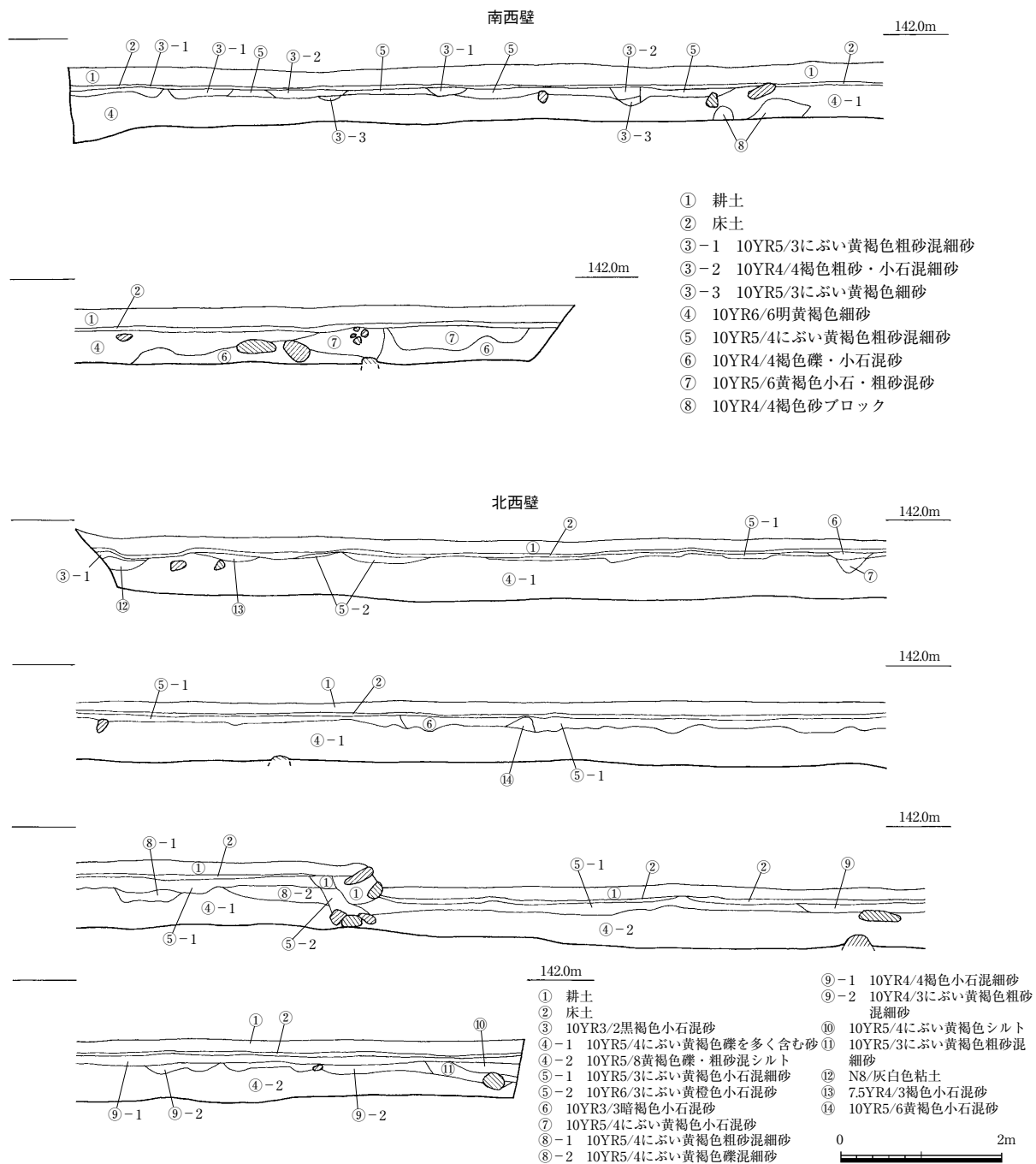
第2調査区において、落ち込みから古代末から中世の所産と考えられる布目痕が残る瓦、遺構面精査中にサヌカイト製石鏟や縄文土器、土師器・土師質土器が出土した。



第3図 調査区位置図 (S=1/5,000)



第4図 第1調査区遺構配置図 (S=1/200)

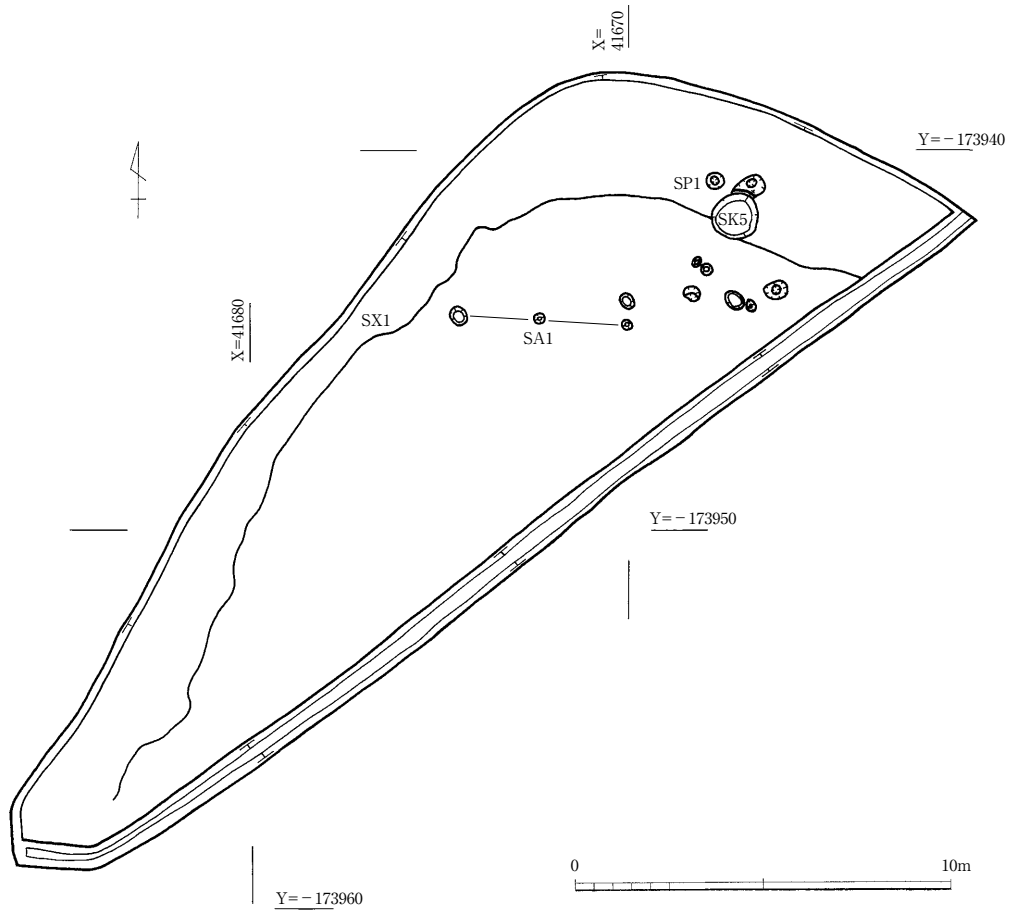


第5図 第1調査区土層断面実測図 (S=1/80)

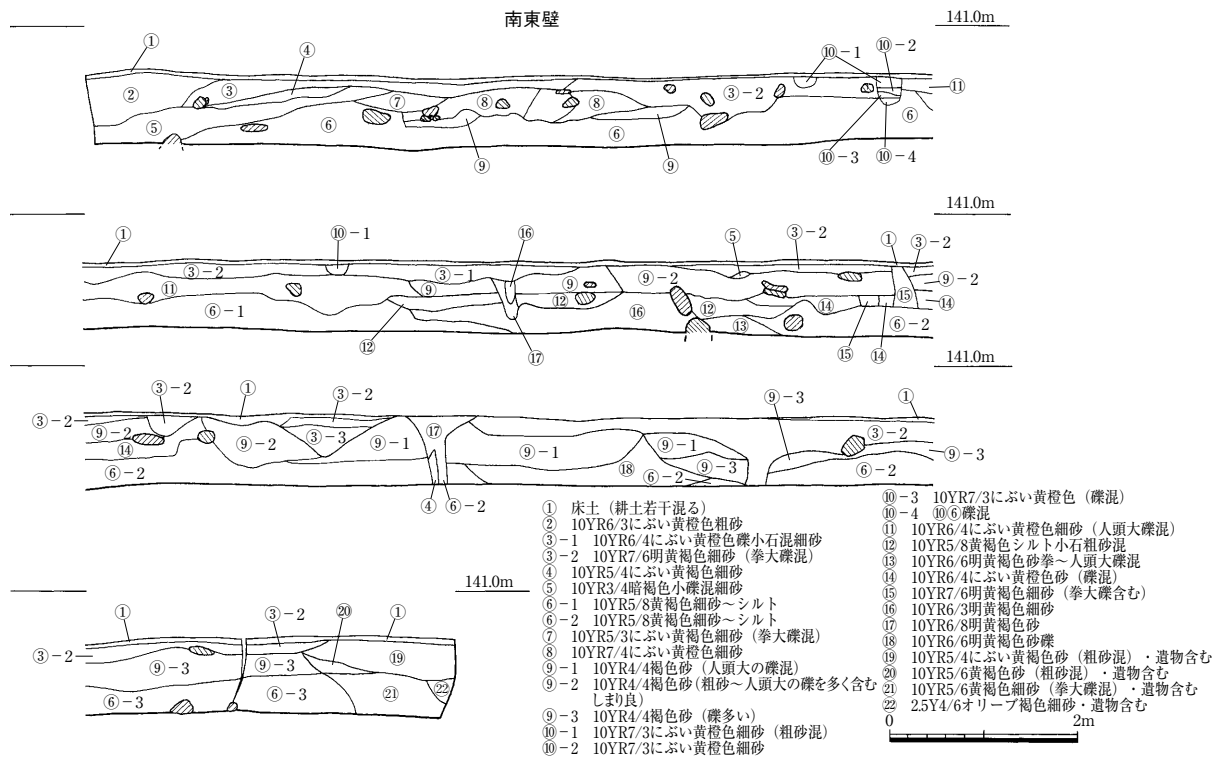
第2節 基本層序

第1調査区では、耕土（層厚約0.2m）、床土（層厚約0.05m）直下で褐色砂を埋土とする遺構を検出した。遺構面を形成する黄褐色細砂～シルトには縄文土器片が認められた。また、下層には黄褐色細砂～シルト（層厚約0.6m）が存在し、さらに下にはこぶし大の礫を多く含む黄褐色粗砂が確認できたが、遺構は検出されなかった。

第2調査区では、耕土（層厚約0.2m）、床土（層厚約0.05m）直下、明黄褐色細砂の上面でにぶい黄褐シルトを埋土とする遺構が検出された。遺構面は、拳大から人頭大の礫混じりの砂やシルトの上面である。



第6図 第2調査区遺構配置図 (S=1/200)

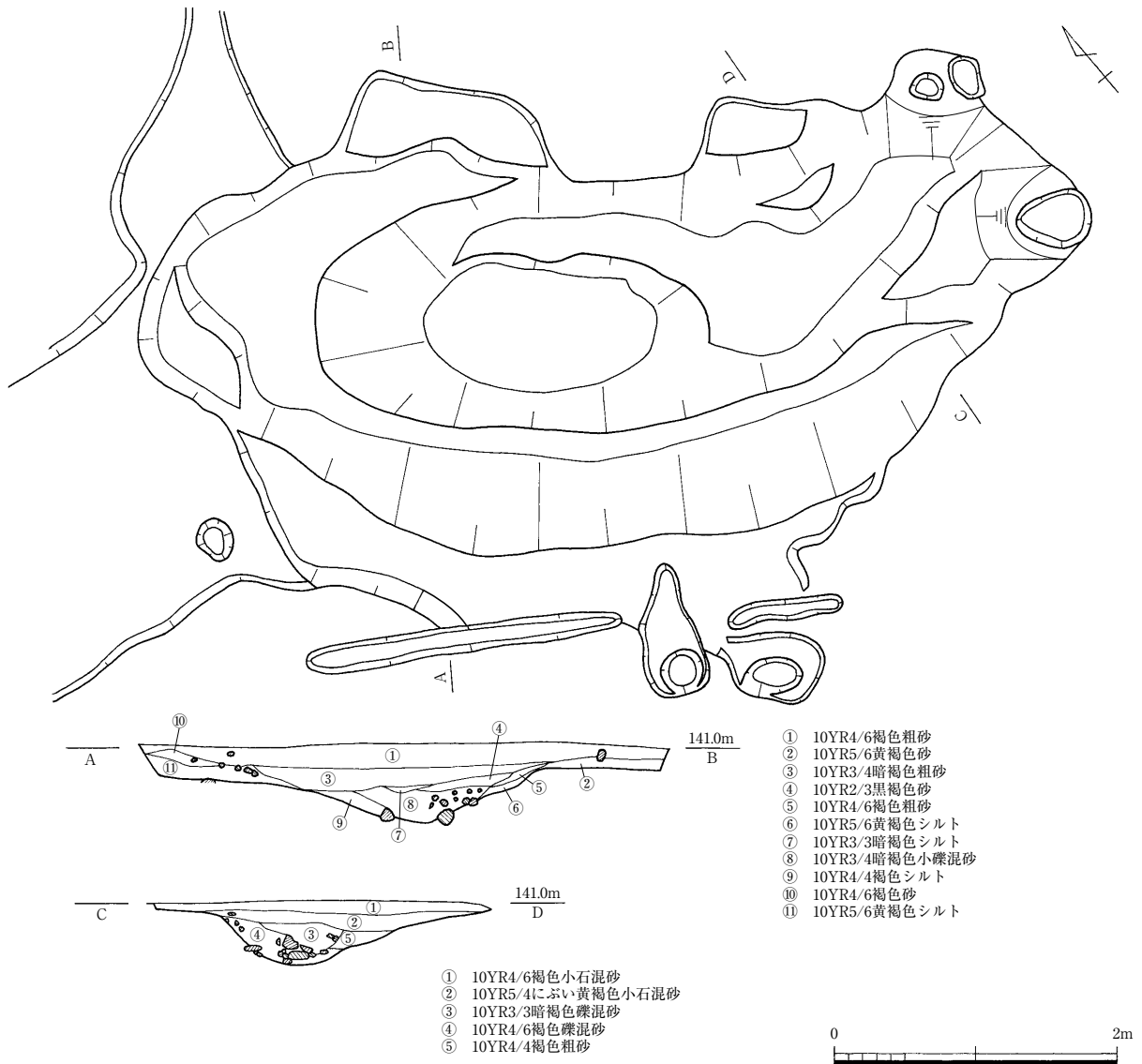


第7図 第2調査区土層断面実測図 (S=1/80)

第3節 第1調査区の遺構

SK1 (第8図・第9図・図版4)

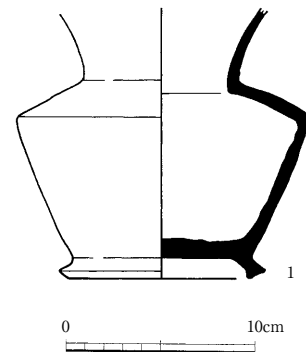
調査区の北東側で検出された。長辺6.8m、短辺2.6m、深さ0.6mの楕円形的大型土坑で、主軸



第8図 SK1遺構実測図 (S=1/50)

方向はN-58°-Wを示す。最上層に褐色粗砂が広く堆積し、この層を掘り下げたところで、暗褐色粗砂あるいはシルトの堆積が認められた。

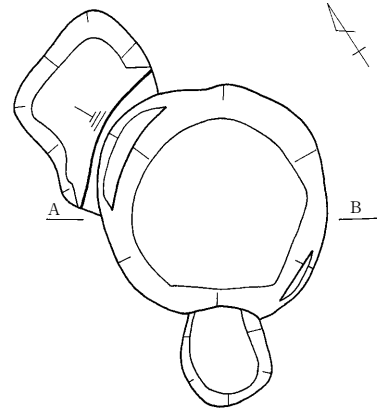
最上層の褐色粗砂からは、サヌカイト剥片(2)、土師質土器片が出土したが、後世の混入と思われる。下層の礫を含む暗褐色砂からは、8世紀ごろの須恵器の長頸壺が出土した。



第9図 SK1出土遺物実測

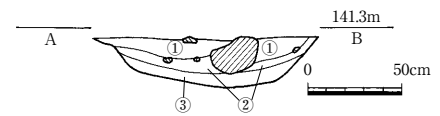
SK 2 (第10図・図版5)

調査区の中央部で検出された。長辺1.3m、短辺1.2m、深さ0.25mのほぼ円形の土坑で、主軸方向はN-20°-Wを示す。埋土は、礫を含むにぶい黄褐色もしくは褐色細砂で、最下層に炭の堆積が認められる。遺物は、上層で瓦器、土師質土器片が出土したが、細片のため図化は不可能であった。



SK 3 (第11図・図版5)

調査区の中央部で検出された。長辺0.9m、短軸0.6m、深さ0.15mの楕円形の土坑で、主軸方向はN-66°-Wを示す。埋土は、暗褐色シルト混じり細砂が堆積する。遺物の出土はない。

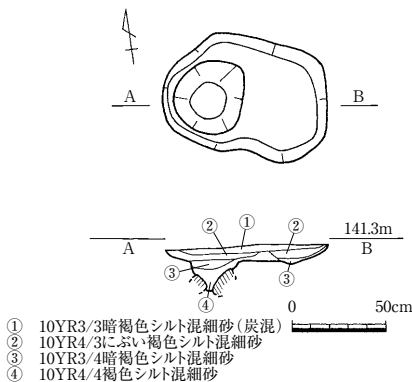


- ① 10YR5/3にぶい黄褐色細砂 (礫を多く含む)
- ② 10YR4/4褐色シルト混細砂 (炭ブロック含む)
- ③ 10YR1.7/1黒色シルト炭層

SK 4 (第12図・図版5)

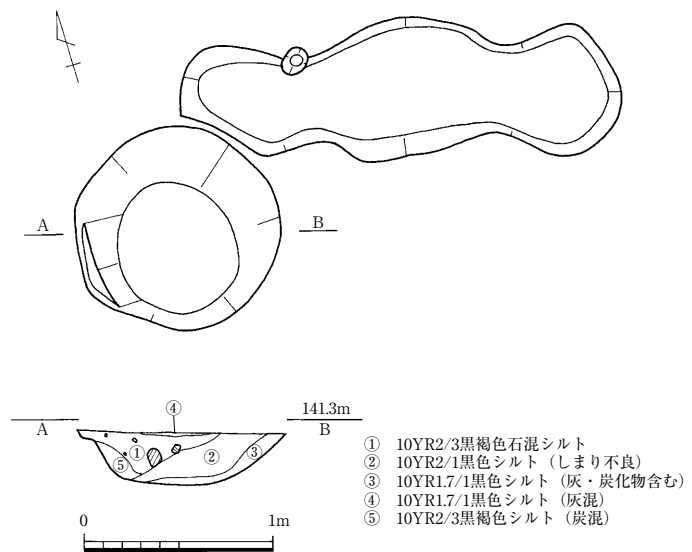
調査区の南側で検出された。直径1.1m、深さ0.3mのほぼ円形の土坑で、主軸方向はN-10°-Eを示す。埋土は、炭や灰が混じった黒ないし黒褐色シルトであり、固く締め固めた状況ではない。遺物の出土はない。

第10図 SK2遺構実測図 (S=1/40)



- ① 10YR3/3暗褐色シルト混細砂 (炭混)
- ② 10YR4/3にぶい褐色シルト混細砂
- ③ 10YR3/4暗褐色シルト混細砂
- ④ 10YR4/4褐色シルト混細砂

第11図 SK3遺構実測 (S=1/40)



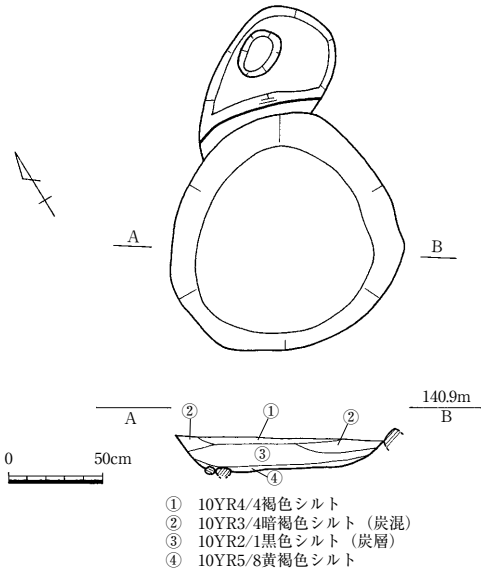
- ① 10YR2/3黒褐色石混シルト
- ② 10YR2/1黒色シルト (しまり不良)
- ③ 10YR1.7/1黒色シルト (灰・炭化物含む)
- ④ 10YR1.7/1黒色シルト (灰混)
- ⑤ 10YR2/3黒褐色シルト (炭混)

第12図 SK4遺構実測図 (S=1/40)

第4節 第2調査区の遺構

SK5 (第12図・図版9)

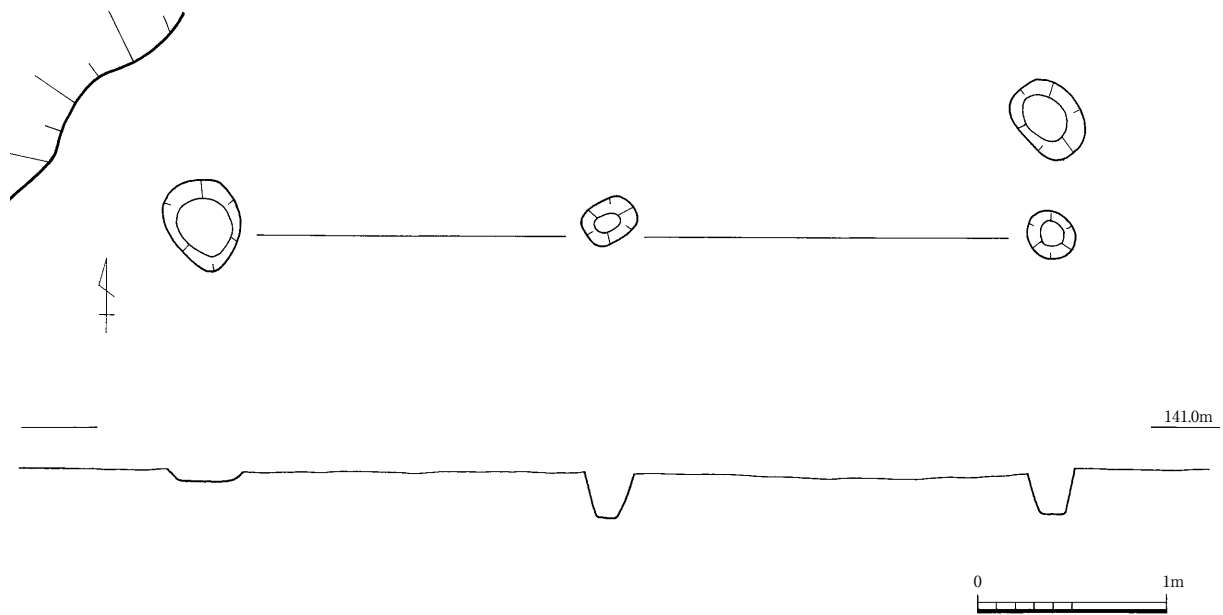
調査区の北東側で検出された。長辺1.25m、短辺1.2m、深さ0.2mのほぼ円形の土坑で、主軸方向はN-31°-Eを示す。埋土は、上層が褐色シルト、最下層が黒色シルト(炭層)である。遺物の出土はない。



第13図 SK5遺構実測図 (S=1/40)

SA1 (第13図)

調査区北東で検出された柵列遺構である。3基のピットからなり、主軸方向はN-88°-Wを示す。柱間は、2.2~2.3mで、深いピットで0.25m、浅いもので0.05mである。埋土は、にぶい黄褐色シルトである。遺物の出土はない。



第14図 SA1遺構実測図 (S=1/40)

SX1 (遺物：第18図)

調査区の西から北側にかけて検出された落ち込みである。調査区の輪郭とほぼ平行に落ち込みの肩が検出された。段丘端部に平坦面を造成するために整地が行われたと考えられる。にぶい黄褐色シルトが堆積しており、サヌカイト剥片や縄文土器、土師器、布目痕が残る平瓦・丸瓦が出土した。

第5節 遺物包含層から出土した遺物

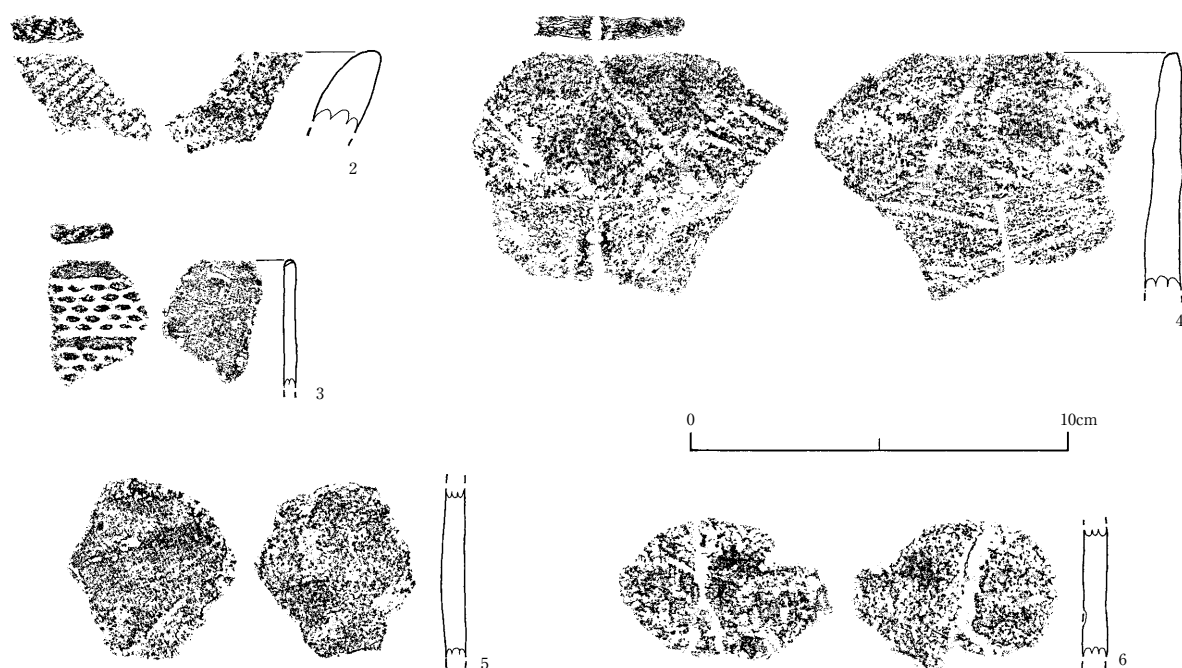
遺構面精査中に、縄文土器、石器、弥生土器、土師器・土師質土器、瓦器などが出土した。

縄文土器（第15図・図版10）

2は第1調査区東側から遺構面に突き刺さるような状態で出土した深鉢口縁部片である。器壁が厚く、最大12mmある。口縁部はやや先細りし、端部は丸くおさめる。傾きおよび口径は不明であるが、口縁部が外に開く器形と考えてよからう。口縁部外面および口縁端部にL R縄文を施す。口縁部内面は無文である。胎土はやや粗く、1～5mm程度の長石・石英・チャートを含む。胎土には繊維を含まない。焼成良好。色調は内外面ともにぶい橙色を呈する。口縁部片のみであるので型式を特定しにくい。早期後葉の条痕文土器とするのは器厚や縄文からみて難しいと思われる。口縁端部の作りや縄文に違和感があるが、押型文土器初頭の大鼻式前後のものともみることがよいのではなかろうか。

3は第1調査区SK1付近検出中に出土したもので、ポジティブな穀粒状楕円押型文を横位帯状に施文する深鉢口縁部片である。傾きおよび口径は不明である。器壁はごく薄く、厚さ3mm程度である。口縁端部が遺存していると判断しており、口縁端部に斜めの刻みが2単位観察されるが、確実ではない。押型文は大きさが米粒大ほどの小粒のものである。押型文原体は長さ15.5mm、原体径は不明、4mmの間隔において2段以上横位帯状に施文されている。胎土は精良で緻密、長石・石英・角閃石・雲母・チャートを含む。また、胎土中に繊維らしきものをわずかに含む。焼成良好。色調は内外面ともにぶい橙色を呈する。穀粒状楕円押型文の非重複施文という特徴からみて中部地方の細久保式と考えられるが、口縁端部の刻目や薄手の器壁は関西的である。

4は深鉢口縁部片である。第2調査区の2ヵ所から分かれて出土した。上半は第2調査区遺構

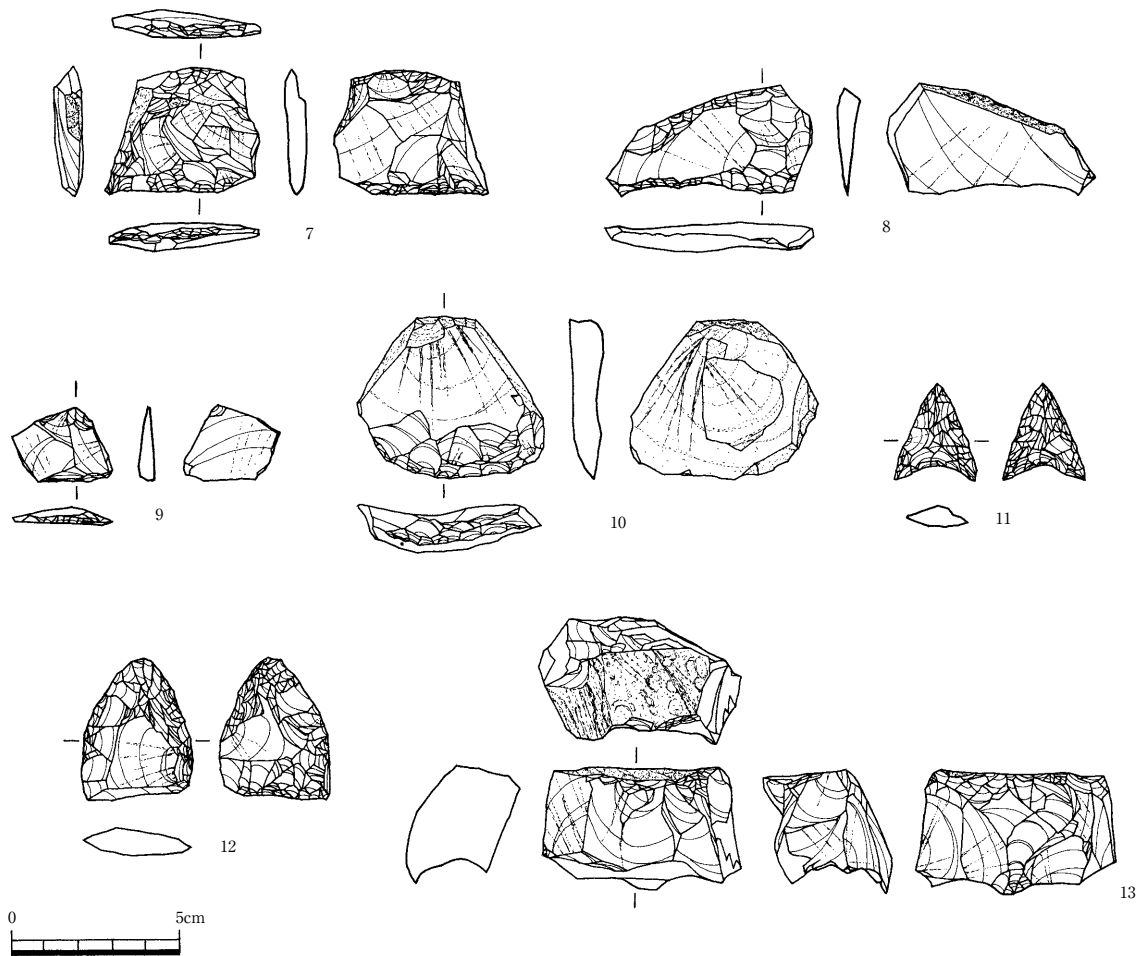


第15図 遺物実測図（縄文土器）

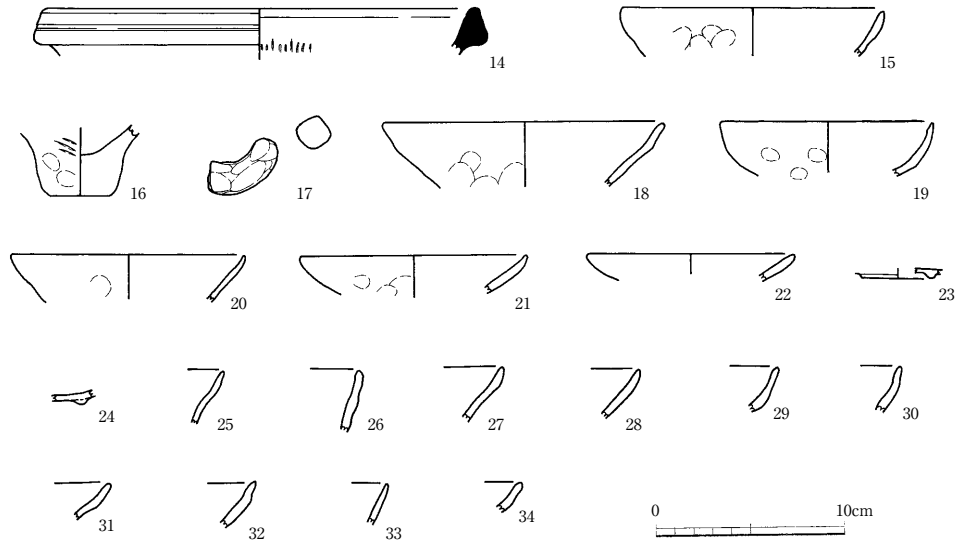
検出中出土、下半は第2調査区SX1断ち割り中出土である。傾きおよび口径は不明である。口縁端部が一部遺存しているとみており、連続したユビオサエが施されているかもしれない。なお、口縁端部にみられる刻目状のものは土器の欠けた部分である。内外面ともに土器表面の遺存状況が悪いが、一部に原体不明の擦痕が認められる。胎土はやや粗く、2mmまでの長石・石英・角閃石を多く含む。また、胎土中に繊維を多く含む。焼成良好。色調は内外面ともにぶい褐色である。胎土中に繊維を含むいわゆる繊維土器は早期後半を中心とした時期にみられる。本例も早期後半から早期末前期初頭の所産とみておきたい。なお写真図版には上半のみが掲載されている。

5・6はいずれも深鉢胴部片で、いずれも第2調査区遺構検出中出土である。傾き不明、天地も不確定である。文様は認められない。内面をナデ、外面をナデ、および板状工具によるナデで仕上げる。胎土中に繊維を含まない。時期不明だが、後期以降のものと考えられる。

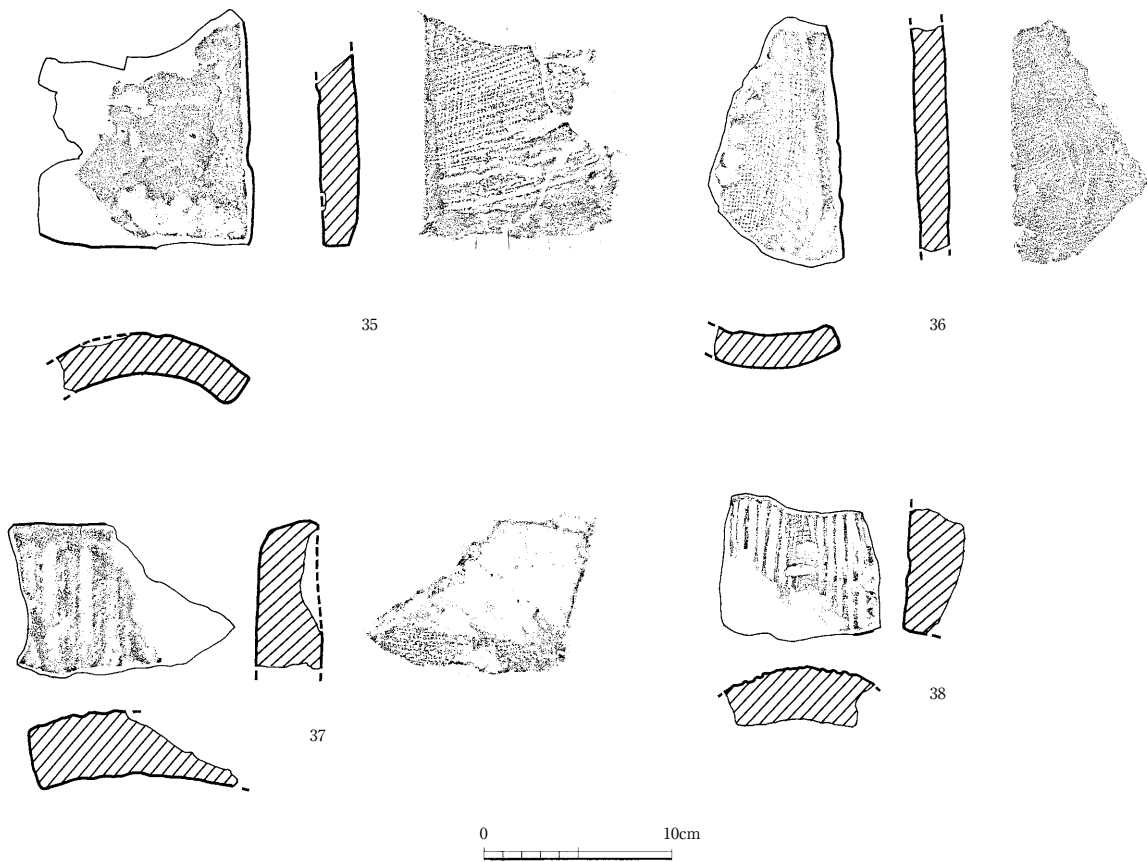
なお、これらの縄文土器について、大石崇史・熊谷博志・田村陽一・矢野健一の各氏より御教示を賜った。



第16図 遺物実測図（石器）



第17図 遺物実測図（その他の土器）



第18図 遺物実測図（瓦）



第19図 遺物実測図 (瓦)

石器（第16図・図版10）

第1調査区において、遺構検出時にサヌカイト剥片が多数出土した。調査区東側検出時に楔形石器（7）が出土した。8・9はサヌカイト剥片であるが、使用痕が認められる。

第2調査区において、遺構検出中に搔器（10）、石鏃（11・12）が出土した。11は凹基式、12は平基式の石鏃であり、縄文時代の所産であると想定される。その他、石核（13）や剥片が多数出土している。石材はいずれもサヌカイトである。

弥生土器（第17図・図版11）

第2調査区において、弥生時代後期（V様式）の鉢もしくは甕の底部（16）が出土した。表面はタタキによる調整が施されている。なお、これまで、高木遺跡では、弥生時代の遺物は出土していない。

土師器・土師質土器（第17図・図版11）

細片が多く、明確な時期や器種を特定することは困難であったが、古いものは、奈良時代にまで遡れるものが認められた。器種は皿や碗が大部分を占める中で、土師器甕の把手（17）、碗（坏）高台（23）が確認できた。

黒色土器（第17図・図版11）

図化できなかったものを含め、5点出土している。細片のため時期を特定する事は困難であった。なお、24は黒色土器坏の高台部分であり、平安時代ごろのものであると推測される。

瓦器（第17図・図版11）

図化できなかったものを含め、3点出土している。33は皿の口縁部であるが、細片のため時期を特定する事は困難であった。

陶器（第17図・図版11）

14は、第1調査区の遺構検出中に出土したすり鉢である。

瓦（第18図、第19図・図版12）

第2調査区の遺構検出時及びSX1断ち割りから多数出土した。凹面に布目痕が残っており、橙色の色調ものが多い。凸面は、たたき目が施されるものと、縄目が施されるものに分けることができる。大部分は平瓦であるが、若干、丸瓦の可能性のあるものが混じる。40は軒丸瓦であるが、瓦当部分が剥落している。

第4章 まとめ

高木遺跡は、これまで本格的な発掘調査が行われておらず、表採資料等から縄文時代と中世の散布地として把握してきた。今回の調査では、これまで想定していなかった弥生時代後期や古代の遺物が出土し、この地一帯で、縄文時代から中世までの間に断続的に人々が生活していたことが明らかになった。

特に、縄文時代早期の押型文が施された縄文土器が出土したことが注目される。河内長野市内においても、縄文時代早期の押型文土器は三日市遺跡などで出土しているが、今回出土したものは、非常に細かい米粒状の文様が鮮明に浮き出ており、厚みも非常に薄く、大阪府下でも類例の少ないものである。今回の調査では、縄文時代の遺構は検出されなかったが、石川流域の縄文遺跡を考える上で非常に重要な発見となった。

また、第2調査区を中心に、平安時代終わりから鎌倉時代ごろの布目が施された瓦が多数出土したことが注目される。当該時期の建物跡などは検出されなかったものの、周辺に寺院の存在が想起される。今回の調査地周辺にかつて寺院があったという伝承が残ることや調査地の北側1kmの地点に所在する観音寺に、平安時代後期の木造大日如来坐像（重要文化財）が伝わっていることなどから、この地に古くから仏教文化が根付いていたことが想定される。

今回の調査地の周辺には、縄文時代早期の集落跡や古代から中世の寺院が存在している可能性が高く、今後の調査の進展が待たれる。

遺物番号	調査区	遺構	種別	器形	口径・底径(cm)	器高(cm)	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	残存率(%)	色調	外面調整	内面調整	焼成	胎土	備考
1	1区	SK1	須恵器	長頸壺	(底径9.5)体部径15.4	残14.3	-	-	-	80	外面:5Y7/1灰白色 内面:5Y6/1灰色 断面N3/1暗灰色	頸部~体部:回転ナデ 底部:ナデ	回転ナデ	並	並(φ2~4mm砂粒含む)	外面口縁部に自然釉がかかる
2	1区	遺構検出中	縄文土器	深鉢	-	-	2.0	3.5	1.2	5	外面・内面・断面:7.5YR6/4にぶい橙色	LR縄文	無文	良好	粗(1~5mm程度の長石・石英・チャートを含む)	
3	1区	SK1付近遺構検出中	縄文土器	深鉢	-	-	3.5	2.6	0.5	5	外面・内面・断面:7.5YR7/4にぶい橙色	押型文	無文	良好	密(長石・石英・角閃石・雲母・チャートを含む)	繊維を若干含む
4	2区	遺構検出中	縄文土器	深鉢	-	-	6.5	8.0	0.9	5	外面・内面・断面:7.5YR5/3にぶい褐色	擦痕	不明	良好	粗(2mmまでの長石・石英・角閃石を多く含む)	繊維を多く含む
5	2区	遺構検出中	縄文土器	不明	-	-	5.0	4.5	0.6	5	外面:2.5Y4/1黄灰色 内面:10YR6/2灰黄褐色 断面:10YR3/2黒褐色	ナデ	ナデ	良好	並(φ1mm砂粒含む)	
6	2区	遺構検出中	縄文土器	不明	-	-	4.3	6.0	0.7	5	外面:5YR6/6褐色 内面:7.5YR6/4にぶい橙色 断面:10YR6/2灰黄褐色	ナデ	ナデ	良好	並(φ1~1.5mm長石を多く含む)	
14	1区	表土・側溝掘削	陶器	擂鉢	22.5	残2.5	-	-	-	5	外面:N/灰色 内面:N/灰色 断:5YR5/6明赤褐色	ナデ	ナデ	並	並	
15	2区	SP1	土師質土器	皿	(14.0)	残2.5	-	-	-	5	外面:7.5YR7/4にぶい橙色 内面:10YR7/2にぶい黄褐色・10YR6/2灰黄褐色	口縁部:ヨコナデ 底部:指オサエ	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	並	並	
16	2区	壁面精査中	弥生土器	鉢底	(底径4.0)	残3.7	-	-	-	5	外面・内面:7.5YR6/6褐色 断面:7.5YR4/1褐灰色・7.5YR6/3浅黄褐色	指オサエ・ナデ	ナデ	並	並	
17	2区	遺構検出中	土師器	把手	-	-	4.0	1.7	1.6	-	2.5YR5/6明赤褐色	ナデ	ナデ	良好	密(φ1mm砂粒若干含む)	
18	2区	遺構検出中	土師質土器	碗	(14.8)	残3.4	-	-	-	10	外面:5YR5/4にぶい赤褐色 内面:5YR5/6明赤褐色 断面:5YR5/6明赤褐色	口縁部:ヨコナデ 底部:指オサエ後ナデ	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	並	並	
19	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	(11.2)	残2.8	-	-	-	10	外面・内面・断面:7.5YR6/4にぶい橙色	口縁部:ヨコナデ 底部:指オサエ後ナデ	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	並	並	
20	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	(12.2)	残2.5	-	-	-	5	外面:5YR5/6明赤褐色 内面:5YR5/6明赤褐色 断面:5YR5/6明赤褐色	口縁部:ヨコナデ 底部:指オサエ後ナデ	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	並	並	
21	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	(11.8)	残2.05	-	-	-	5	外面:5YR6/6褐色 内面:5YR6/6褐色 断面:5YR6/6褐色	口縁部:ヨコナデ 底部:指オサエ後ナデ	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	並	並	
22	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	(10.8)	残1.4	-	-	-	5	外面:5YR6/8褐色 内面:7.5YR6/6褐色 断面:7.5YR7/4にぶい橙色	磨耗のため不明	磨耗のため不明	並	並	
23	2区	遺構検出中	土師器	坏(高台)	(底径3.8)	残0.5	-	-	-	5	外面:7.5Y5/6明褐色 内面:7.5Y6/6褐色 断面:7.5Y7/6褐色	不明	不明	並	並	
24	2区	遺構検出中	黒色土器	坏(高台)	-	残0.8	-	-	-	5	外面:10YR6/3にぶい黄褐色 内面:2.5YR3/1黒褐色 断面7.5YR7/6褐色	不明	不明	良好	密	
25	2区	遺構検出中	土師質土器	碗	-	残2.9	-	-	-	5	外面・内面:7.5YR5/3にぶい褐色・7.5YR7/6褐色 断面:7.5YR7/6褐色・7.5YR8/3浅黄色	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	並	並	
26	2区	遺構検出中	土師質土器	碗	-	残3.3	-	-	-	5	外面・内面・断面:2.5YR6/6褐色	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	並	並	
27	2区	遺構検出中	土師質土器	壜	-	残3.0	-	-	-	5	外面:5YR6/6褐色 内面:5YR6/6褐色 断面:5YR5/6明赤褐色	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ、指圧痕あり	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	良好	密	
28	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	-	残2.6	-	-	-	5	外面・内面・断面:5YR5/6明赤褐色	口縁部:ナデ 底部:指オサエ	ハケ状工具ナデ	良好	密	
29	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	-	残2.3	-	-	-	5	外面・内面・断面:5YR7/6褐色	口縁部:ヨコナデ	口縁部:ヨコナデ	並	並	
30	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	-	残2.3	-	-	-	5	外面・内面・断面:5YR8/6褐色	口縁部:ヨコナデ 底部:指オサエ	口縁部:ヨコナデ 底部:ナデ	並	並	
31	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	-	残2.0	-	-	-	5	外面:7.5Y5/6明褐色 内面:7.5Y5/6明褐色 断面:7.5Y5/6明褐色	口縁部:ナデ 底部:指オサエ後ナデ	口縁部:ナデ	並	並	
32	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	-	残2.3	-	-	-	5	外面:5YR5/8明赤褐色 内面:5YR3/3暗赤褐色 断面:5YR5/8明赤褐色	口縁部:ヨコナデ 体部:指オサエ	表面剥離不明	良好	密	
33	2区	遺構検出中	瓦器	皿	-	残2.1	-	-	-	5	外面:10YR5/1褐灰色 内面:10YR4/1褐灰色 断面:10YR5/1褐灰色	口縁部:ヨコナデ 体部:指オサエ	ヘラミガキ	良好	密	
34	2区	遺構検出中	土師質土器	皿	-	残1.5	-	-	-	5	外面:7.5YR5/3にぶい褐色 内面:7.5YR5/3にぶい褐色 断面:5YR6/6褐色	不明	不明	良好	密	

第2表 遺物観察表(土器)

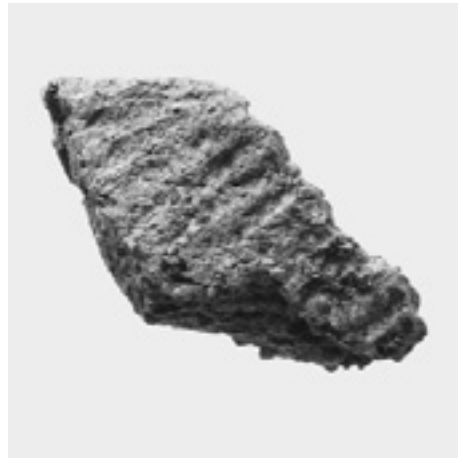
遺物番号	調査区	遺構	石材	種類	全長(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	重さ(g)	残存率(%)
7	1区	遺構検出中	サヌカイト	楔形石器	2.5	3.1	0.5	5.1	98
8	1区	SK1付近遺構検出中	サヌカイト	剥片	4.1	2.2	0.5	4.6	90
9	1区	SK1付近遺構検出中	サヌカイト	剥片	1.5	2.0	0.3	1.0	100
10	2区	遺構検出中	サヌカイト	搔器	3.2	3.7	0.7	10.3	99
11	2区	遺構検出中	サヌカイト	凹基式石鏃	1.9	1.7	0.5	0.8	100
12	2区	遺構検出中	サヌカイト	平基式石鏃	2.9	2.2	0.6	5.0	100
13	2区	遺構検出中	サヌカイト	石核	2.7	3.9	1.8	25.7	99

第3表 遺物観察表 (石器)

遺物番号	調査区	遺構	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	凹面		凸面		断面 色調	焼成	胎土
							色調	調整	色調	調整			
35	2区	遺構検出中	瓦	(12.0)	(11.2)	(2.1)	7.5YR8/2灰白色	布目痕、糸切り痕	7.5YR7/3に ぶい橙色・ 7.5YR7/6橙 色	ナデ	2.5YR6/6橙 色・ 7.5YR8/2灰 色	並	並
36	-	表採	平瓦	(13.0)	(6.8)	(1.8)	7.5YR6/4に ぶい橙色・ 7.5YR7/6橙 色	布目痕	7.5YR6/3に ぶい橙色・ 7.5YR7/6橙 色	ナデ	7.5YR6/3に ぶい橙色・ 7.5YR7/6橙 色	並	並
37	2区	遺構検出中	瓦	(8.0)	(10.0)	(3.5)	10YR7/3に ぶい黄橙色	布目痕 磨 耗	10YR7/3に ぶい黄橙色	タタキ	10YR7/3に ぶい黄橙色	並	密
38	2区	遺構検出中	瓦	(7.5)	(8.4)	-	剥離	剥離	10YR7/4に ぶい黄橙色	タタキ	10YR8/3浅 黄色	並	密
39	2区	SX1 断ち割り 1	瓦	(12.0)	(11.2)	(2.0)	10YR6/4に ぶい黄橙色	木びき・布 目痕	10YR7/6明 黄褐色	磨耗不明	10YR6/2灰 黄褐色	並	並
40	2区	SX1 断ち割り 3	軒丸瓦	-	(10.0)	-	5YR7/6橙 色	ナデ	5YR7/6橙 色	ナデ	5YR6/6橙 色・ 7.5YR8/4浅 黄色	不良	密
41	2区	遺構検出中	平瓦	(23.5)	(13.8)	(2.2)	2.5YR4/1黄 灰色・ 10YR6/3明 黄褐色	布目痕	2.5YR4/1黄 灰色・ 10YR7/2に ぶい黄橙色	タタキ	10YR8/4浅 黄褐色・ 10YR7/6明 黄褐色	並	並(5mm 以下の白 色砂礫を 多く含む)
42	-	表採	平瓦	(9.0)	(7.5)	(2.0)	2.5Y8/3淡黄 色・10YR7/6 明黄褐色	ナデ	2.5Y8/3淡黄 色・10YR7/6 明黄褐色	ナデ	2.5Y8/3淡黄 色・10YR7/6 明黄褐色	並	並(5mm 以下の礫 を多く含 む)
43	2区	遺構検出中	平瓦	(10.4)	(5.0)	(1.9)	5Y7/2灰白 色	布目痕	5Y7/2灰白 色	ナデ・一部 縄目	5Y7/2灰白 色	並	密
44	2区	遺構検出中	平瓦	(12.3)	(11.0)	(2.3)	7.5YR6/1灰 色	布目痕、糸 切り痕	N6/0灰色・ 7.5Y7/1灰 白色	縄目	N6/0灰色・ 7.5Y7/1灰 白色	並	並
45	2区	遺構検出中	平瓦	(7.9)	(8.0)	(1.9)	5YR6/6橙 色	布目痕	10YR7/3に ぶい黄橙色	タタキ	5YR5/4にぶ い赤褐色	不良	密
46	2区	遺構検出中	平瓦	(10.2)	(9.5)	(1.7)	10YR5/1褐 灰色・ 10YR8/3浅 黄褐色	布目痕	10YR7/3に ぶい黄橙色	タタキ	7.5YR6/4に ぶい橙色・ 10YR6/4に ぶい橙色	並	並

第4表 遺物観察表 (瓦)

版 圖





航空写真（北東から）



調査区全景（南から）



第1調査区 全景（北東から）



第1調査区 全景（南西から）



第1調査区 全景（東から）

図版
4



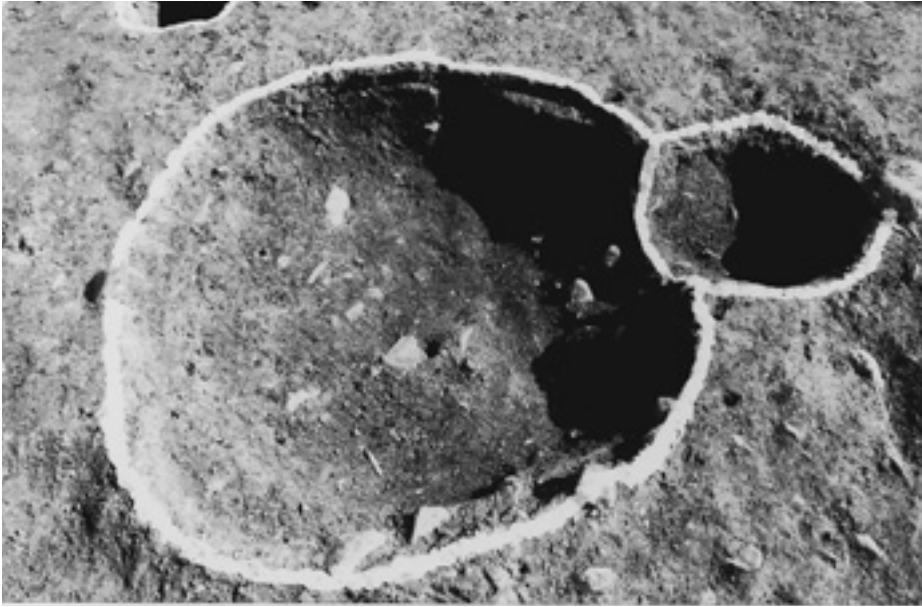
第1調査区
SK1(南西から)



第1調査区
SK1(北西から)



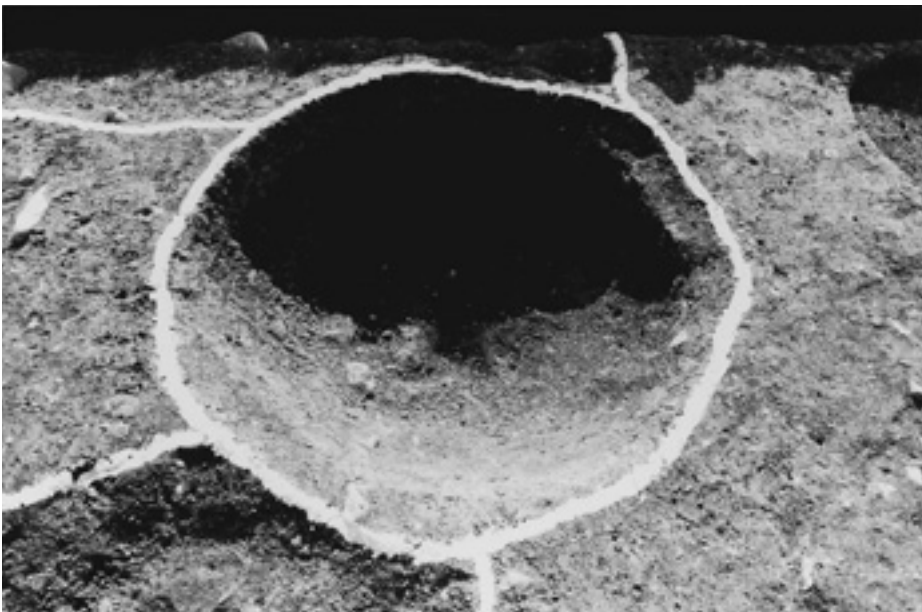
第1調査区
SK1土層断面
(南から)



第1調査区
SK2 (南西から)



第1調査区
SK3 (北から)



第1調査区
SK4 (北東から)



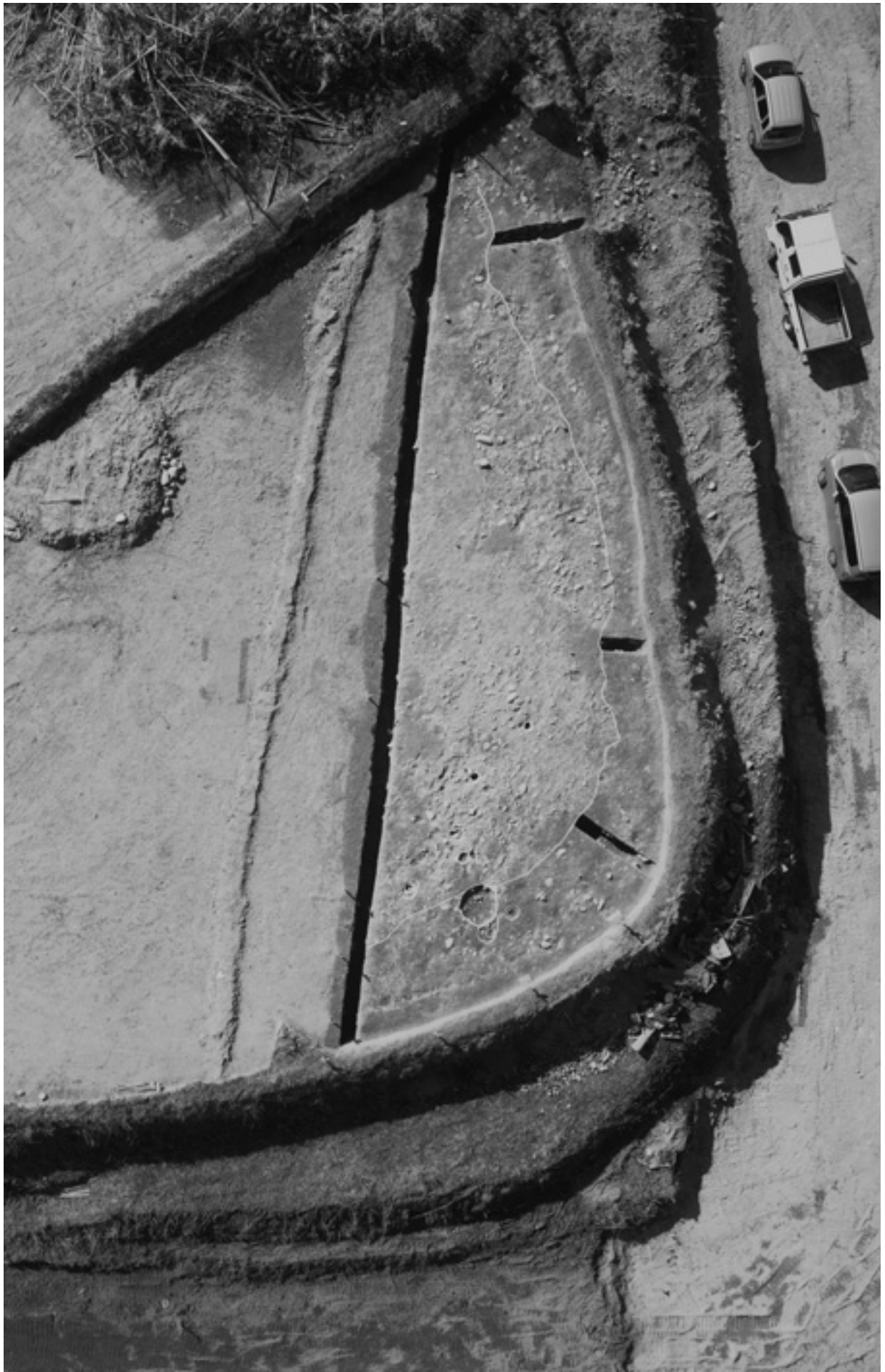
第1調査区
北西壁断面
(南東から)



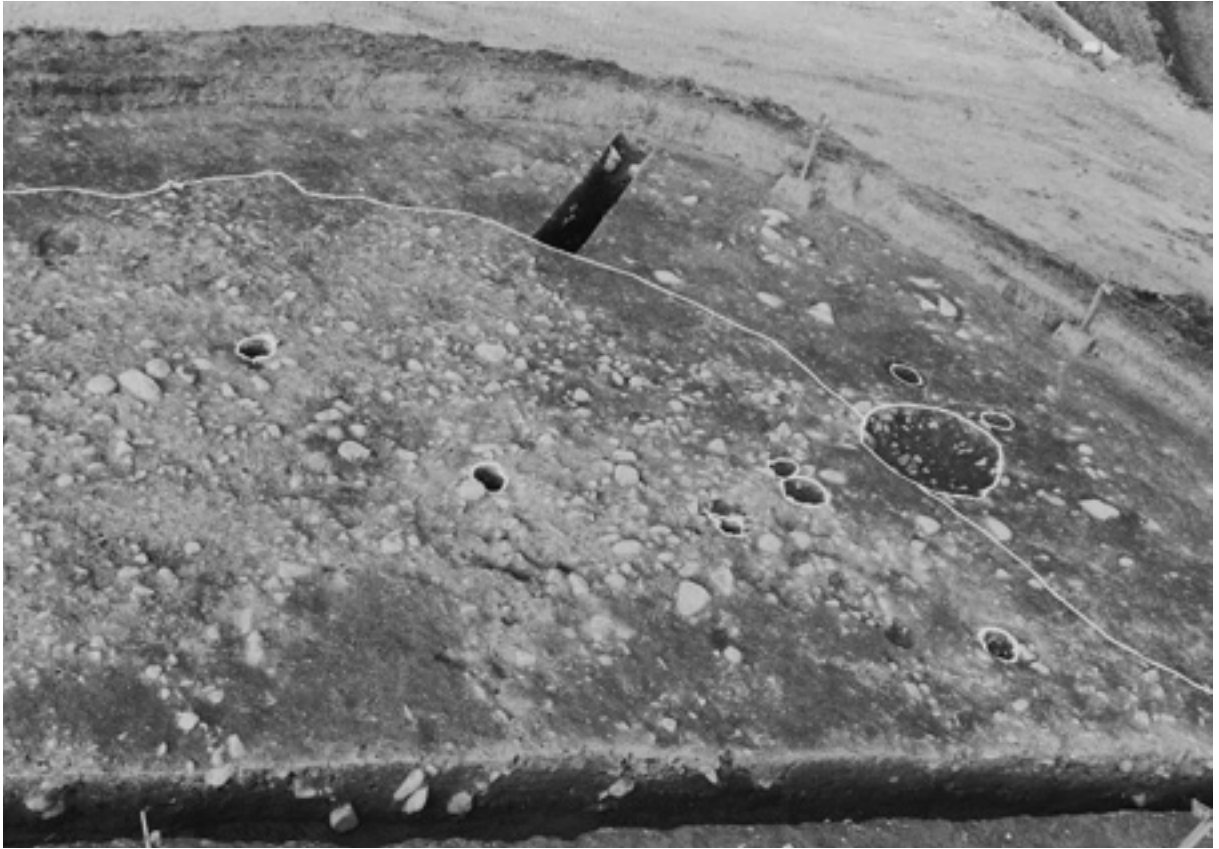
第1調査区
南東壁断面
(北西から)



第1調査区
下層遺構確認
トレンチ
(北東から)



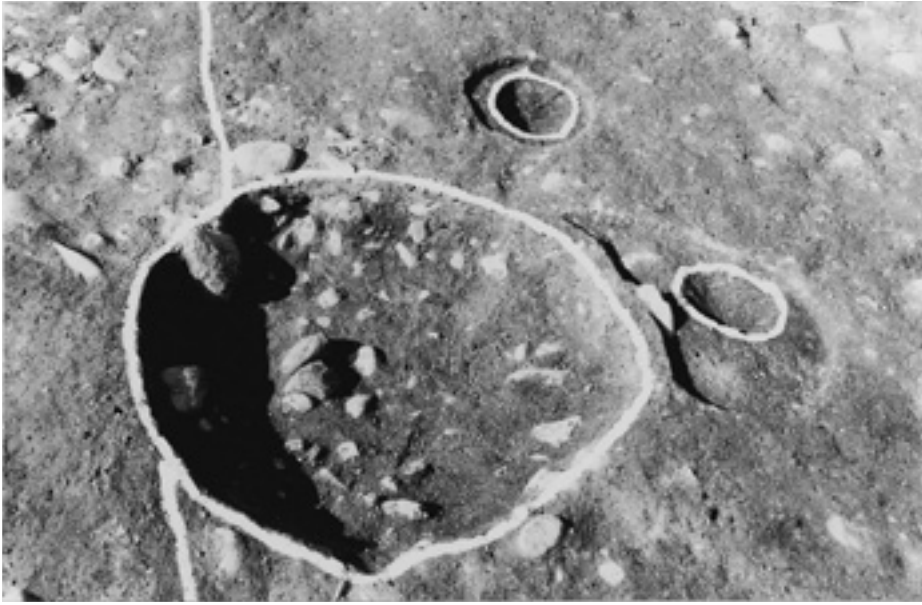
第2調査区 全景（北東から）



第2調査区 全景（南東から）



第2調査区 全景（東から）



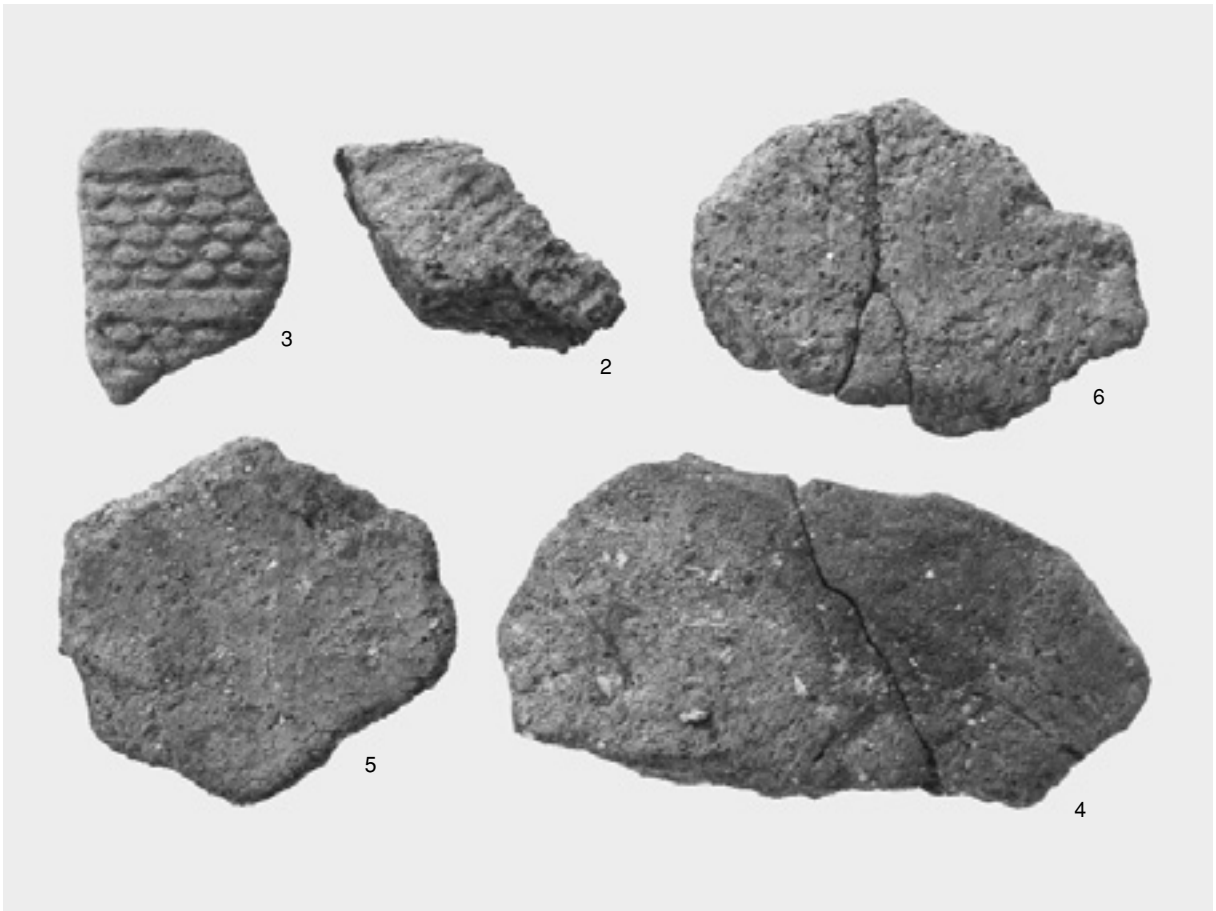
第2調査区
SK5 (東から)



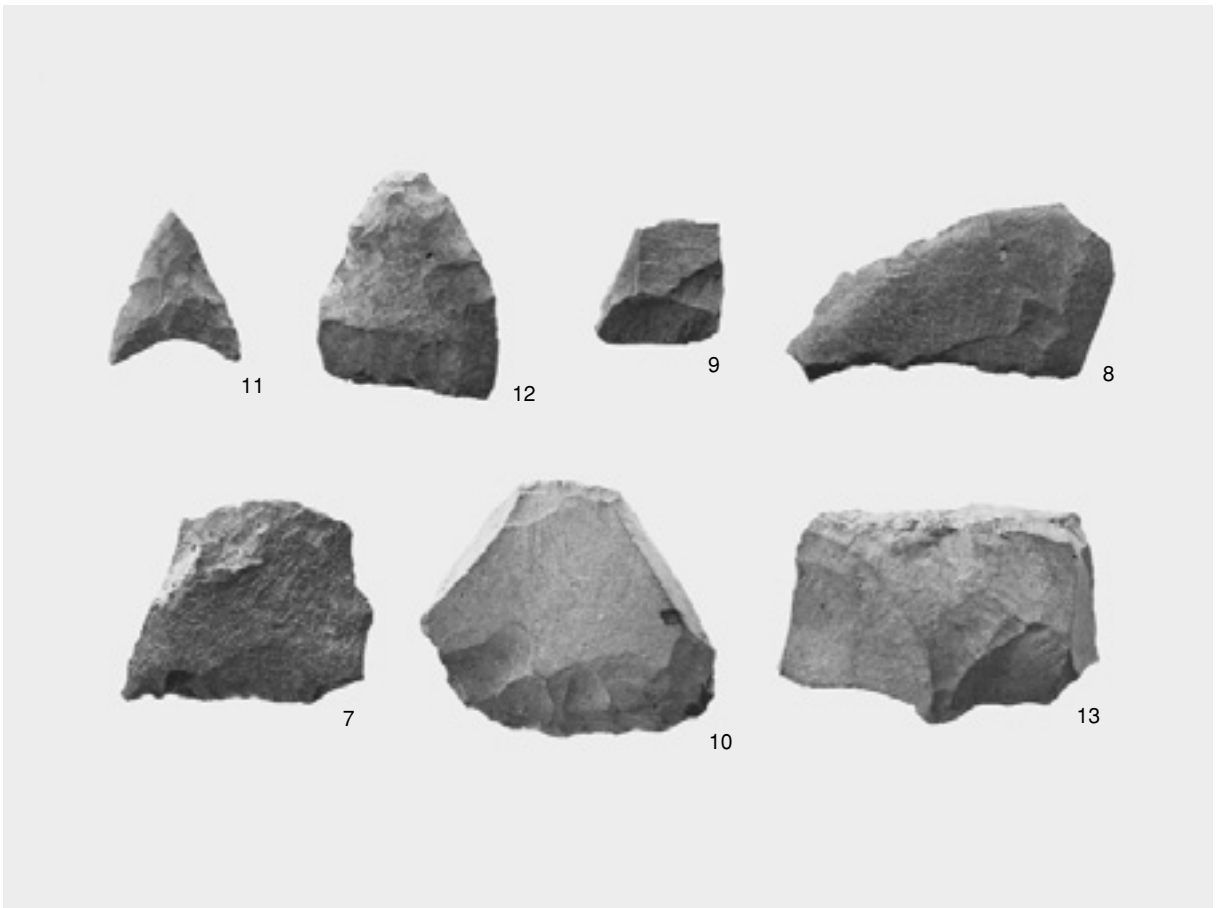
第2調査区
SX1 (南西から)



第2調査区
南東壁断面
(北西から)



縄文土器



石器



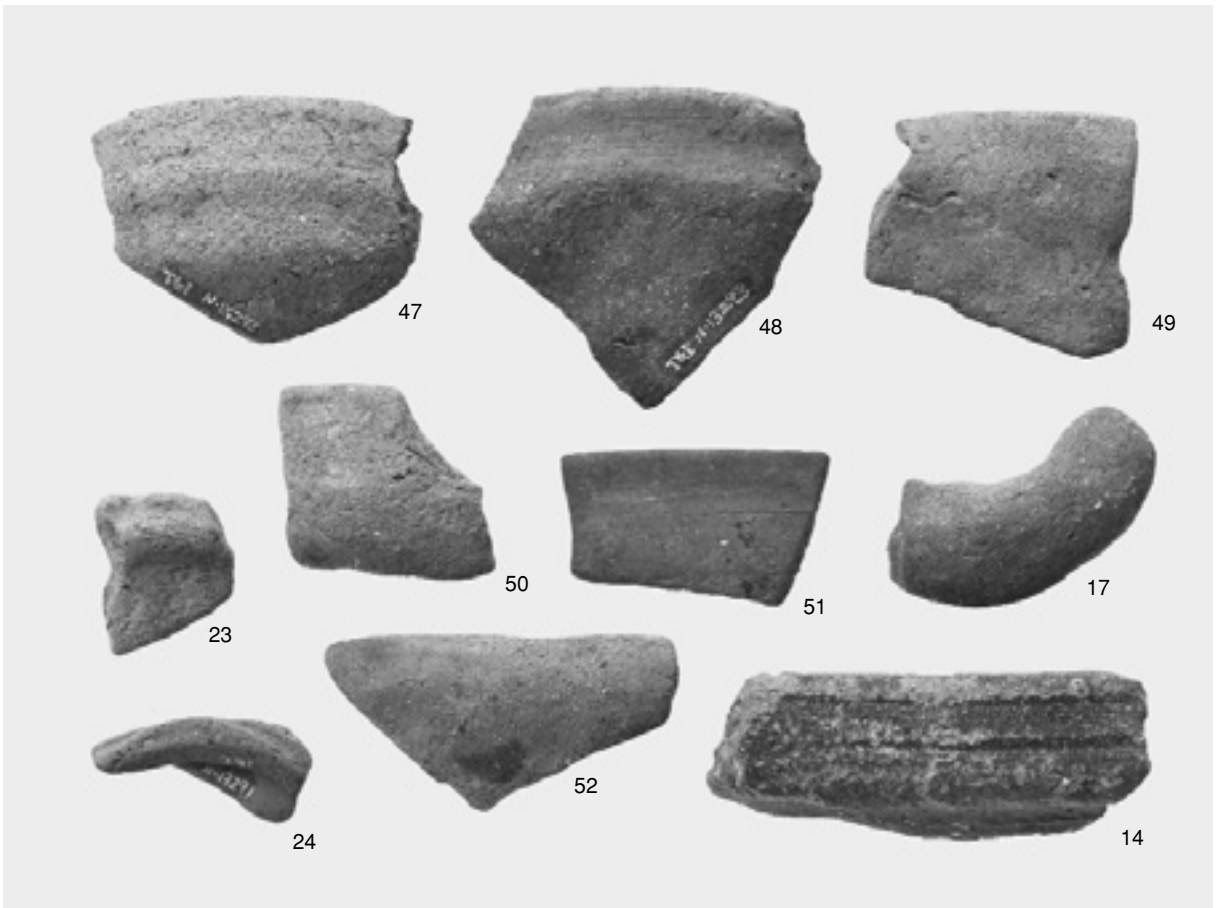
16

弥生土器

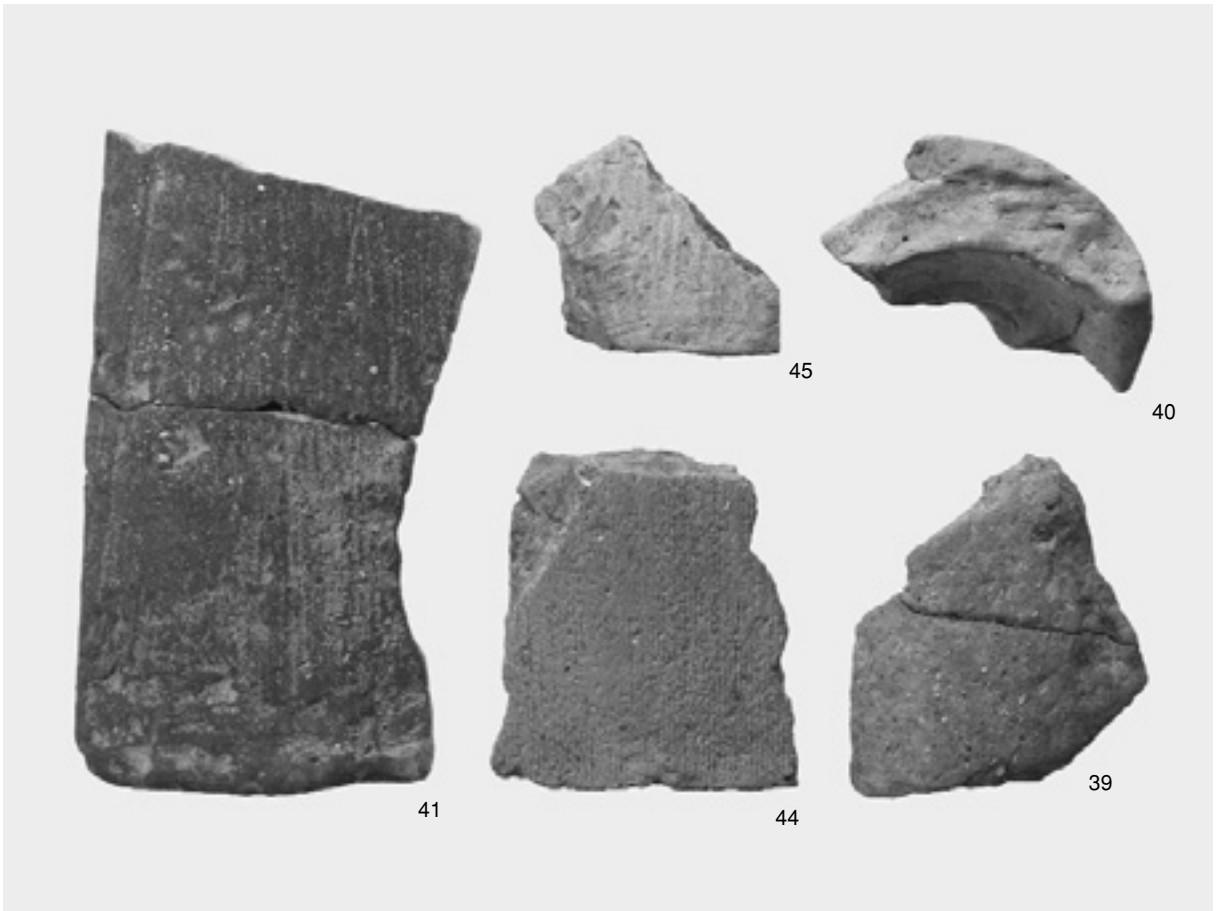


1

須恵器



その他の土器



瓦 (凹面)



瓦 (凸面)

報 告 書 抄 録

ふりがな	たかぎいせきはつちょうさがいよう							
書 名	高木遺跡発掘調査概要							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編 著 者 名	島津知子・大野 薫							
編 集 機 関	大阪府教育委員会文化財保護課・河内長野市教育委員会ふるさと文化課							
所 在 地	大阪府教育委員会〒540-8571大阪府大阪市中央区大手前二丁目TEL06-6941-0351(代) 河内長野市教育委員会〒586-8501河内長野市市原町一丁目1番1号TEL0721-53-1111(代)							
発行年月日	2012年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 / 〃	東経 。 / 〃	調査期間	面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
たかぎいせき 高木遺跡	かわちながのし 河内長野市 ひの 日野	27216	58	34° 25' 47"	135° 32' 48"	20101116～ 20110131	約590m ²	記録保存
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
高木遺跡	集落跡	縄文時代				縄文土器	押型文土器片が出土	
	集落跡	古代～中世		土坑・小穴		須恵器・瓦		
要 約	縄文時代早期の押型文土器が出土した。奈良時代の土坑が検出され、須恵器壺が出土した。平安時代～鎌倉時代の瓦が出土し、寺院の存在が推定された。							

高木遺跡発掘調査概要

発行 大阪府教育委員会
〒540-8571 大阪市中央区大手前二丁目
TEL 06 - 6941 - 0351 (代表)
河内長野市教育委員会
〒586-8501 河内長野市市原町一丁目1番1号
TEL 0721 - 53 - 1111 (代表)

発行日 平成24年3月30日

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL 06 - 6976 - 8761 (代表)